

草の根技術協力事業（地域活性化特別枠）

「キガリを中心とした若手 I C T人材育成事業」

インターネットメディア FM わいわいでの広報活動

『KOBE BRIDGING JAPAN & AFRICA THROUGH ICT』

価値と評価解析

事業応募者 神戸市

事業実施者 神戸情報大学院大学

第1期における日本語・英語 22 番組についてのアンケート調査

1. アンケート調査実施の背景

神戸情報学院大学で学ぶアフリカ出身（ルワンダ共和国出身者はキーパーソン）の学生が、FMYY のインターネット配信による番組で、自身の学びやその学びを自国でどのように役立てるかを語る。このことは、日本・神戸とルワンダを中心としたアフリカ諸国を双方向でつなぐ人材であることを、学生自身が自覚する機会とする。

また言葉として発信することは、海外から見た自国について考える機会ともなる。

合わせて、ゲストとして出演するのは、基本的にルワンダ出身学生 1 名と他のアフリカの国の学生 1 名とすることで、学生同士がアフリカは決して一色ではなく、自国とはいろいろな意味で違っていることを知る機会とする。

これらのことを、基本的に英語での会話ではあるが、日本向けの番組も通訳を介して日本語での番組として同時に制作することで、神戸の人々に、あるいはインターネット配信により、いろいろな地域の日本語話者の方々にこの番組を聞いていただくことで、ルワンダ共和国・キガリ市について、ひいてはアフリカについて興味・関心をもってもらえることが狙いである。

同時にアフリカから来た学生の視点から見えた日本・神戸について、伝える機会にするという思いを込め、番組の名に「KOBE bridging」という「神戸から日本とアフリカの架け橋となる」という言葉を冠した。

実際にこの番組がそれぞれの地域、日本とアフリカにおいて、一定の番組制作の狙いに合致した結果となっているかを確認するために、アンケート調査を行うこととした。

2. アンケート実施方法

番組が累計 22 番組に達した時点で、神戸を中心とした日本語話者 40 人(帰国子女一人、タイ在住の日本語科大学教師一人を含む)そしてアフリカにおいては、ルワンダ共和国、コンゴ民主共和国、ウガンダ共和国の 3 国（以下、ルワンダ、コンゴ、ウガンダと表す）の 76 人に、インターネット上のアンケートサイトのアドレスを告知し、アンケート回答を依頼した。

基本的に日本語・英語とも、全員第 1 回目の番組、アフリカからの学生の受け入れ先である神戸情報大学院大学における講義の目的について解説した番組を聞いた後、その他の 21 番組の中から自由に選択した後アンケートに答えるという形式をとった。アンケートの回答形式は、設問に対して、5 つの答えの中からの選択制と自由記述という形態である。

番組については、FMYY の WEBSITE に学生の写真、出身国、彼らの研究概要を、日本語と英語で記述したものを掲載し、番組選びの参考にしてもらった。

3. アンケート調査分析

A)各設問の分析 円グラフ・棒グラフによるアンケート結果①添付資料参照

【日本側のアンケート参加者】すべての設問に対して 40 件の回答

Q12. あなたの年代は？

40 人中 10 代 20 代が 20 人、30 代 40 代 50 代 60 代 70 代が 20 人と、年代としては万遍なくアンケート回答者を選ぶことができた。

Q13. あなたの性別は？

性別もバランスよく聞くことができた。一般的な日本社会において、このような社会的問題に対しての応募型のアンケート男女比は、2：8 あるいは 3：7 くらいが標準とされている。しかしながら 30 代以上は FMYY に関連する人々に対してアンケート調査依頼を行ったので、一般とはかなり違った結果が出たのは納得できる。

それに反して、現在の大学生の在籍数の比率は、男女ほぼ同数が標準である。そのため 10 代 20 代の大学生に

関しては男女比がほぼ同数となっている。これはアフリカ諸国とは違った結果になると思われる。

日本において、アフリカへの関心事も男女比のバランスがとれている。また、インターネット上での番組の視聴やアンケート調査においても、どの年代においても男女間における差は、ほとんど見られないという結果を得た。

Q1. あなたは、何回目の番組を聞きましたか？（2つ以上、聴いた回に○をしてください）

第1回目は、基本としてすべてのアンケート回答者が聞く。次に聞く回は、続いて2回、3回と連続し継続して聞く人と、最後から聞いていく人の二極化となった。このことは全く予想しない結果であった。

また、このグラフでは表れていないのであるが、60代と70代の人から「ひとり5番組6番組を聞いたが、チェックを入れるのが、うまくいかなかった。」と、連絡を受けている。グラフから、高齢の方々はかなりの数の番組を聞いていただいたことが確認できる。

Q2. 以前から、アフリカに関心はありましたか？

2.5%の人がアフリカへの関心が「非常に強い」という結果は、驚きであり、「そう思う」の35%と合わせると37.5%という高い割合は、FMYYに何らかのつながりをもつ回答者であることを考えると日本の一般的な視聴者との差があることは、考慮しなくてはならない。

Q3. 番組第1回を聞いて、この番組の目的が理解できましたか？

目的理解の「非常にそう思う」と相対する「全くそう思わない」は同率の5%。半数以上はおおむね番組の目的理解ができたと考えられる。

Q4. アフリカの方達が日本・神戸で、ICTを用いた社会の課題解決の方法を学ぶことは有意義だと思いますか？

アフリカの方達の日本・神戸でのICTの学びについては、75%が前向きな反応であり、「全くそう思わない」は0%、「そう思わない」という否定的な意見は2.5%と極端に少ない。

Q5. この番組を聞いて、アフリカやルワンダ共和国について関心は高まりましたか？

この番組を聞いて、趣旨は理解したが、その高まりはあるかという「そう思わない」という否定的な意見が20%である。このことから、相関図での年代層の読み解き、番組自体の構成などを解析し、今後の番組構成の課題としなくてはならない。

Q6. 上記で、1.または2.を選んだ方は、その理由を教えてください。（複数選択）

番組内容自体への評価は、BGMの音量の調整という編成上の問題であり、番組目的や内容に関する評価は高いことは、棒グラフの評価でわかる。留学生の経験談、ルワンダという国での話題などアフリカ全般に対する興味関心は高い。また、ルワンダでの人材育成事業の広報として、この番組が意図するところは大きな関心を持たれていることがわかった。

Q7. この番組を聞いて、ルワンダ共和国での人材育成事業について関心を持ってましたか？

60%弱の人が、ルワンダ共和国現地での人材育成に関心は持てた。しかし20%は興味がないと答えている。相関図と合わせて、年代構成などからの判断も必要である。

Q8. 上記で、1.または2.を選んだ方は、その理由を教えてください。（複数選択）

非常に大きな関心は、アフリカと日本の中の神戸との連携、そしてアフリカ諸国との人材交流について、半数近くの人がその関心の理由としてあげている。神戸情報大学院大学の教育内容を留学生たちも語りで、広く社会に理解を求めることは一定の評価に達したと言える。

しかし、この番組の目的は、それだけではない。プロジェクトから派生する日本人との触れ合い、そしてアフリカ諸国の留学生同士が神戸で出会い、知り合い、母国に戻ってもその交流が継続、あるいは他のアフリカ諸国への興味関心を持つという人と人の交流・出会いからのものを期待していた。アンケート回答者もそのことを汲み取っていただけたことが読み取れた。

Q9. この番組は、アフリカに関心を持つきっかけとして有効だと思いますか？

2.5%の人は、このようなプロジェクトに完全否定の意見である。最初の項目（アフリカの人々が日本・神戸でICTの知見を学ぶ）以外は、肯定感を持っていないようである。しかしながら、半数以上の人々が遠いと思っていたアフリカとの何らかの関心を持つきっかけとしてのこの番組の存在を支持し、そのきっかけとしても有効であると考えている。全く思わない人とそう思わないという否定的な意見の人が15%あるが、相関図からも解析しその意味を読み解く必要がある。

Q10. あなたは、この番組を今後も聞きたいと思いますか？

「非常にそう思う」と「そう思う」を足した数字と「そう思わない」と「全く思わない」を足した数字が、全く同数の32.5%というのは、非常に興味深い。次のステージの番組のあり方が、「どちらとも言えない」のいわゆる中庸の数字の変容にかかわる。これはこの次のコーナーでの実際のコメントから読み解いて、番組づくりをすることにかかっていると理解した。

Q11. この番組を聞いて、感想をお聞かせください。

様々なご意見をいただいた。特に英語での感想を書いた日本への中国人留学生は、同じ留学生としての立場のアフリカからの留学生の日本での生活や経験、そしてアフリカについての話を興味深く聞いてくれたようだ。

第1回目のBGMの音量の問題があったが、今後の番組についてはトーク中心のもっと絞り込んだ構成がよいかもしれない。特にゲストは必要のようだ。また日本人のアフリカに対するステレオタイプの認識を変えていく番組として、そしていろんな国とのかかわりに中の日本というものを理解するため、今後の番組構成に対する期待を多くいただいた。

【アフリカ側アンケート調査参加者】回答者は76人、設問により参加人数は多少のばらつきがある。

Q12. You are in your 74 件の回答

日本側と大きく違うのが、この年代層である。74人中73人が10代20代30代で占められている。

これはルワンダ、ウガンダ、コンゴでの回答者は主に学生を中心にしたことと、このようなインターネットを活用したアンケート調査が可能な知識、興味、また機材をもっているかどうかの寄るところは多いと言える。

Q13. You are 72 件の回答

設問の答えで上記と同じく日本側と大きく違うのは、男女比である。7割以上が男性と答えている。アフリカ諸国においてまだまだ10代20代30代において教育の機会を得ることができるのは、男性に比重が置かれていることがわかる。

Q1. Which radio show did you listen to? (Please listen to at least 2 shows.) 76 件の回答

日本側と同じく、第1回目は基本としてすべてのアンケート回答者が聞く。次に聞く回は、続いて2回、3回と連続し継続して聞くという傾向、また最後から聞いていく人の2極化となることは日本側と同じ傾向である。しかしながら、ほとんどの回を聞いていただけ多様であり、非常に番組自体に大きな興味関心を持っていることが見て取れた。

Q2. Were you interested in Japan before participating in this survey? 76 件の回答

「日本に対する関心」は、80%近くがこの調査の前からあったと回答している。今後のアフリカの若者たちに対する日本との関係について、その将来を重要と考えていかななくてはならない回答である。

Q3. Did you understand the purpose of this program by listening to the first show (vol.1)? 76 件の回答

「この番組制作意図は、理解できたか」についても、80%以上ができたと回答されており、否定的な回答は全くなかった。

Q4. Do you think it is meaningful to study in Kobe, Japan about the ways to solve social issues through ICT?

76 件の回答

「ICT を活用した社会問題解決のため日本・神戸での学習は深い意味があると思うか」という設問に、ほぼ90%の賛成の回答があった。非常に期待感が大きいとわかる。

Q5. After listening to this program, are you further more interested in Kobe city and Japan? 76 件の回答

「この番組を聞いたことで、より日本と神戸という街への関心が深くなったか」という設問に対してもほぼ90%の人が肯定の回答となっている。否定の回答はなかった。この番組制作により、日本・神戸に対する親近感、そして期待感が増したと言える。

Q6. Please choose the reason(s) for your answer to the above question. Choose all that are relevant.

67 件の回答

「Q5 の質問の回答としての理由」で多かったのは、自分と同じアフリカの家族についての話や ICT 技術やその活用についての話、そして来日のための目的意識などが高く評価されていた。それに続いて、自身の能力開発や神戸の街についての印象や経験なども高く評価されている。自国に対する思いや地震の将来像に重ねてという部分と神戸という街、日本への関心が高いと言える。

Q7. After listening to this program, are you more interested in the human resource development project in Rwanda? 76 件の回答

「この番組を聞くことでルワンダにおける人材育成プログラムに興味を持ったかどうか」この設問に関して初めて否定的な回答が出た。これは、ルワンダにおける人材育成であるということも影響しているのかもしれない。65%を超える高評価があるのは、この人材育成プログラムに対する評価であると考えられる。

Q8. Please choose the reason(s) for your answer to the above question. Choose all that are relevant.

65 件の回答

上記の設問に対して「どんな理由から回答が導かれたか」を聞いたところ、活動自体への興味関心であり、そして日本のアフリカやルワンダへの貢献、そして社会問題解決のための ICT 技術の応用が大きな理由であった。実に、アフリカの若者たちが ICT を活用して、現実のアフリカでの問題解決に注目しているかを明白にする結果となった。

Q9. Do you think this radio program works as a way to get people interested in Japan or Kobe? 76 件の回答

「この番組が日本や神戸に対する興味関心に役立つと思うか」という質問に対して、70%の人が肯定の回答である。3人か4人の人が、否定的な回答であることは相関図での解析が必要である。

Q10. Are you interested in listening to more shows of this program? 76 件の回答

「今後もこの番組を聞きたいか」についても、Q9 と同じ傾向がみられる。

Q11. Please share your feedback about this program. 76 件の回答

自由回答では、アフリカの国々の非常に前向きな姿勢が読み取れる。日本・神戸に対する興味関心やこの番組で知ったルワンダにおける人材育成に強い関心を持つということだけでなく、日本での番組収録のみならずアフリカでも行ってほしいとか、ルワンダだけでなく、この回答者たちの国、ウガンダ、コンゴでもこのプロジェクトの実施を望む声もあった。そして彼らの多くが、スマートフォンでこの番組を聞くことができ、そして多様な分野でアフリカからの留学生たちが ICT 活用について語るのを聞き、非常に触発されたことが理解された。アフリカの未来に対する力強さを感じさせるものである。

B) 各設問結果の相関関係の分析 参考添付資料②相関図参照

【日本側のアンケート参加者】

日本側アンケート調査対応者の年代的特徴は、10代20代が40名の半分を占め、その他の年代は万遍なく、配置されているということである。

その中で、以前からアフリカに関心があったと答える若年層(20代以下)の高い数字は想定外であった。

そしてその若年層は、日本でのアフリカ諸国の若者が ICT を学ぶ意義を高く評価しているにもかかわらず、アフリカ、ルワンダに対する興味関心が高まったわけではないと答えている。

対して 30 代以上の人々は、日本でのアフリカ諸国の若者が ICT を学ぶ意義も理解し、かつアフリカ、ルワンダに対する興味関心も高まっている。(相関図 2.3)

この番組の骨子ともいえるルワンダ共和国における人材育成の重要性は、若年層にはあまり理解されておらず、反対に 30 代以上の人々の理解は深いと言える。また、この番組のアフリカへの関心へのいざないは、30 代以上には評価されているが、20 代以下にはどちらとも言えないという評価帯が主流である。(相関図 4.5.6.7)

上記の解析と同じく、この番組制作目的、ルワンダにおける人材育成について、またアフリカへの興味関心を生み出すということに対して、20 代以下のアンケート回答者にはあまり感じる事ができず、これからの日本・神戸とアフリカ諸国との繋がりを求めるという意欲も、この年代には乏しいということがわかる。それとは反対に、30 代以上の人々には聞いてみたいという積極性や今後の繋がりに大きな興味関心があり、合わせて、今後の番組制作の展開にも期待感を持っていることが分かった。(相関図 8.9.10)

【アフリカ側アンケート調査参加者】

アフリカ側のアンケート調査対応者の年代的特徴は、76 人中 20 代 30 代が大半を占め、10 代が少し、そしてその他というのは 60 代一人という非常に特徴的なものとなった。その中で ICT を通じて、社会的問題解決の道を日本・神戸で学ぶということに大きな期待や興味を特に 20 代がそして 30 代 10 代 (もちろん 60 代も) 持っていることがわかる。(相関図 12.13)

この番組を聞いたことで、ルワンダにおける人材能力開発により興味を持つようになったかという問いの答えに対する反応からは、20 代 30 代にやや違いがみられた。この原因は、アンケート参加者の国別 (ルワンダ、コンゴ、ウガンダ) によりルワンダの若者にとって参加の可能性を自分事として見る事ができた。また年齢的に難しいと感じたか、あるいはルワンダ国籍でないことにより、将来この取り組みへの参加の可能性ということからの差ではないかと考える。(相関図 14.15)

また、この番組により「日本・神戸に対する興味関心を人々にもたらすか」という設問に関して、ある程度の評価はあるものの、初めて「全くそうは思わない」という結果が、非常に少ないもののあるということは、今後の番組制作に関しての注意喚起点である。(相関図 16.17.18)

そして、自分事としてなんらかの将来的な希望のあるアンケート回答者は、この番組を聞いてより深く次の試みについての情報取得のために番組を聞き続けたいと考えており、この番組を聞くことでルワンダにおける人材育成・開発の取り組みに興味を持った人は、日本・神戸への興味喚起をこのラジオ番組は起こすものだと考え、もちろん積極的にこの番組によって、未来像というものを感じた人ほど、今後の新たな情報取得のツールとしてこの番組の継続を希望するということがうかがい知ることができた。(相関図 18.19.20)

4. 所感 上記の分析から読み取れるものを列記しながら、言及する。

上記の解析からわかることは、非常に大きな日本の問題が見えたように思う。これは憂慮すべきことである。日本の 10 代 20 代の若者たちが、アフリカについては関心があるとし、またアフリカ諸国の若者たちが日本・神戸において ICT を学ぶことについてその重要性は理解するとしながらも、そこで完結しているように見える。

ルワンダでの人材育成のプロジェクトや今後の展開については、非常に消極的な回答が寄せられている。

また、日本・神戸とアフリカ諸国との繋がりにしても、その消極性は同様である。

それに対して、社会の中の中核を担う 30 代以上 70 代までの人々がこの番組の目的とするところ、番組タイト

ルにあるように、神戸から日本とアフリカに橋を架ける、それは一方からの支援の形ではなく、双方向により良い取り組みとなることを目的とした人材育成の目的が理解されていることが確認できた。

アフリカからの回答は、見事に日本の20代10代とは違う、力強いものを感じる回答が寄せられた。

ルワンダのみならずウガンダやコンゴからの回答は、アフリカ諸国の若者たちの力強さを感じさせるものであった。番組内でも語られていたが、インフラが整わないからこそその世界観から、今後の行き詰まり間のある日本経済の突破口を見つけることができるのではないかと感じた。

5. 総括 草の根事業の広報活動としての本コンテンツ発信の価値と評価を記載する。

日本側の10代20代の学生たちの認識や意欲と、アフリカ、ルワンダ・ウガンダ・コンゴの同年代の若者たちの熱意の差があまりにも明確に出たことは、予想できたと言えればできたが、やはり大きな衝撃であった。

これは、ご自身も留学生として日本で過ごした経験があり、かつ神戸情報大学院大学の講師でもあるコンゴ出身のセンダ氏が番組内で語られているように、インフラの整っていない国に生きる者と、すでに生まれたときからほとんどのインフラが完備されている国の若者の感性の違いといえるだろう。

日本においても、社会的課題は実は山積している。にもかかわらず、それを見ないで生きていくことが可能な日本社会である。しかし、現代を生きる若者も20年後30年後にはきっと、そのつけはまわってくるはずだ。

これからの未来社会を形成していくためには、前を見るだけの、右肩上がりの経済のみを求める時代は終わったと言える。発展途上にある国々におけるICTの活用・応用方法に目を向け、インフラがないからこそ生まれるその応用方法に注目すべきであろう。日本がアフリカ諸国に教える・支援するという構図ではなく、閉塞感に満ちた成熟社会の日本の今を打破するために、新興国に学ぶ必要がある。

この番組は、アフリカのルワンダを中心とした熱意ある若者たちに向け、日本・神戸におけるICTの研究、そして同時にルワンダ現地における人材育成について伝えることを目的としていたが、このアンケート結果を受け、次のことが見えた。

つまり、この熱意あるアフリカの若者たちと日本の学生たちの交流を産むことこそが、日本の将来に向けた転機、展開の一つの道筋であると判断する。

番組は、単に情報発信という一方向だけのものではない。現代においてはこのようなアンケート形式で番組に対する反応を受けることができ、簡単にアフリカと日本・神戸という遠隔地を結ぶことができる。国境を越え、言葉を越え共に次世代を形成していく若者同士が、これからの社会的機器「ICT/IoT」について、社会的問題解決のためにいかにそれを活用・応用するかを語り合う「場」としての番組構成が、次の機会では求められていると考える。

次の機会においては広報ということだけではなく、違いを持った者同士の語りの場、新たな知恵をうむ出す場としての構成を考えてゆきたい。

それにより、国と国の関係という枠組みのみならず、人と人の関係を構築することになり、世界的な相互理解、平和構築、利害だけでは無い人間関係としてのアフリカと日本という構図が生まれてくると考える。

添付資料①-1

日本・神戸を中心としたアンケート調査

日時:2019年6月

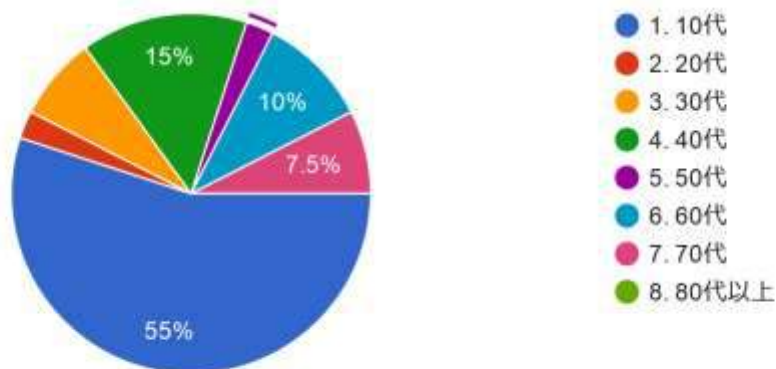
件数:40件

アンケートの基本的形態

第1回目のこの番組制作の意図を紹介する番組を視聴いただき、その後その他 FMYY のサイトにある22番組(第1回を含む)を無作為に聞いていただいた後、サイト上にある設問13に答えていただく形態。

Q12. あなたの年代は？

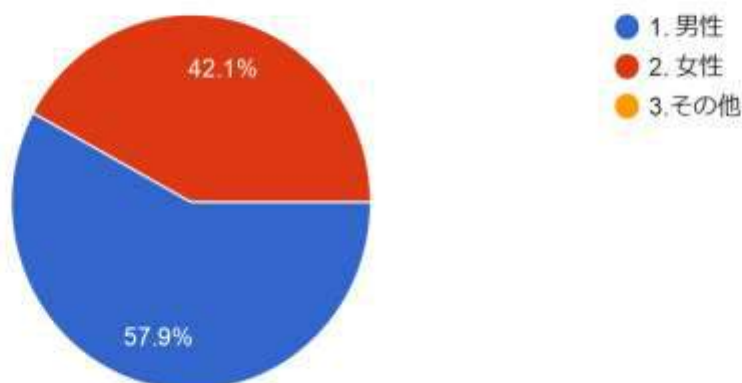
40件の回答



1.10代	2.20代	3.30代	4.40代	5.50代	6.60代	7.70代	8.80代
22人	1人	3人	6人	1人	4人	3人	0人
55%	2.5%	7.5%	15%	2.5%	10%	7.5%	0%

Q13. あなたの性別は？

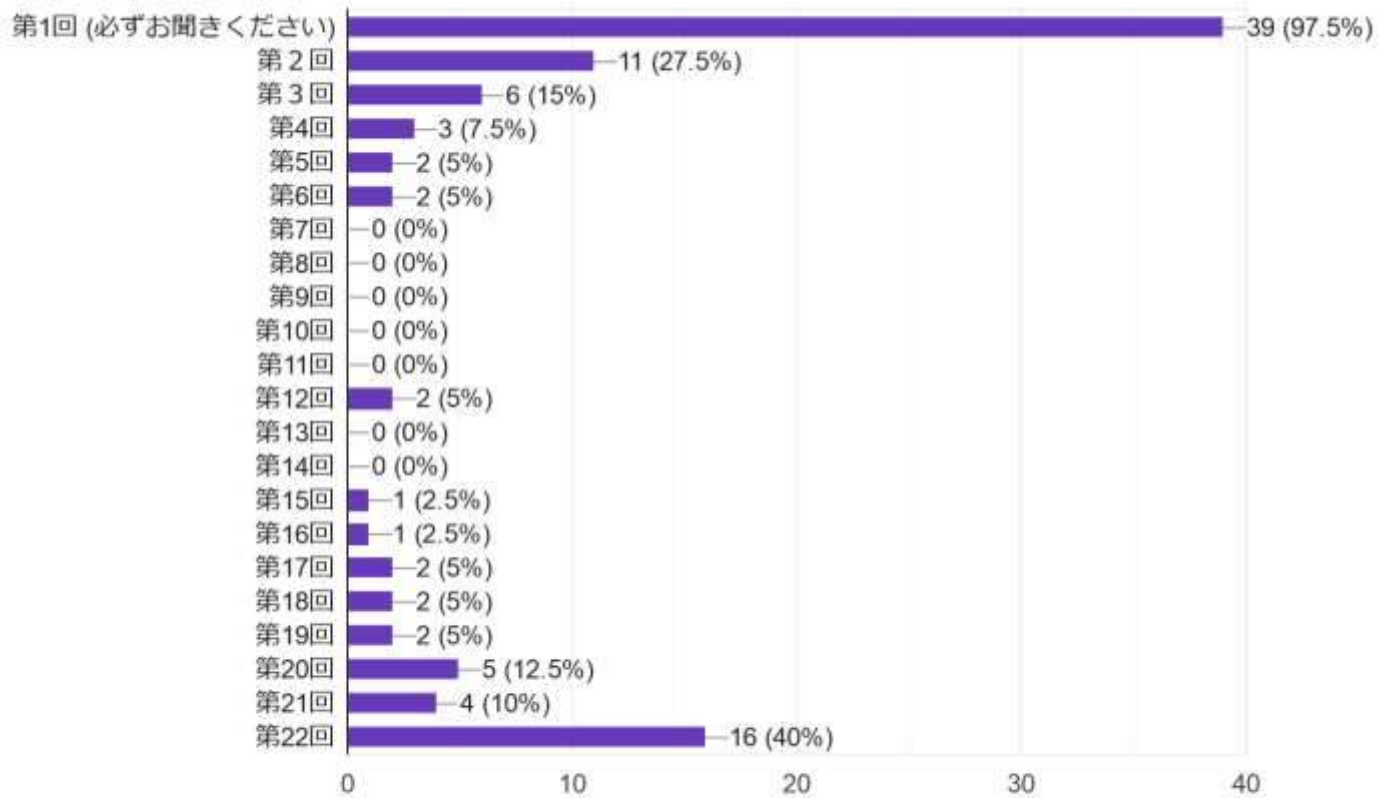
38件の回答



1.男性	2.女性
22人	16人
57.9%	42.1%

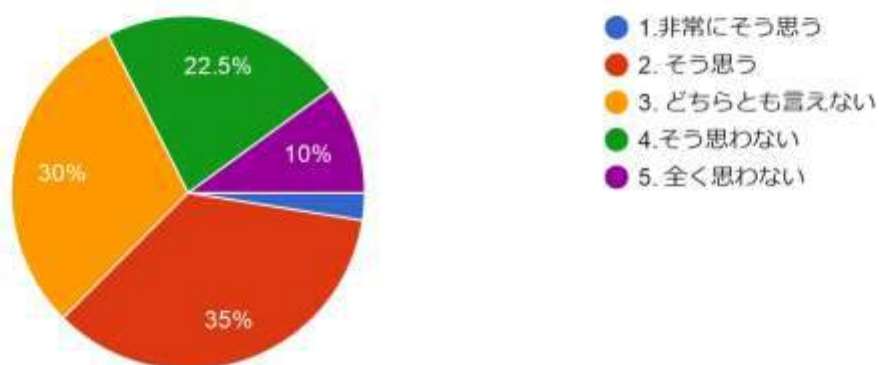
Q1. あなたは、何回目の番組を聞きましたか？（2つ以上、聴いた回に○をしてください）

40件の回答



Q2. 以前から、アフリカに関心はありましたか？

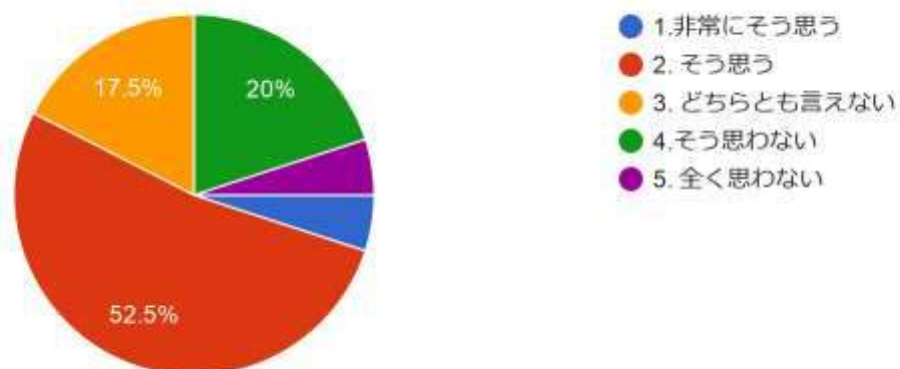
40件の回答



1.非常にそう思う	2.そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
4人	14人	12人	9人	4人
2.5%	35%	30%	22.5%	10%

Q3. 番組第 1 回を聞いて、この番組の目的が理解できましたか？

40 件の回答

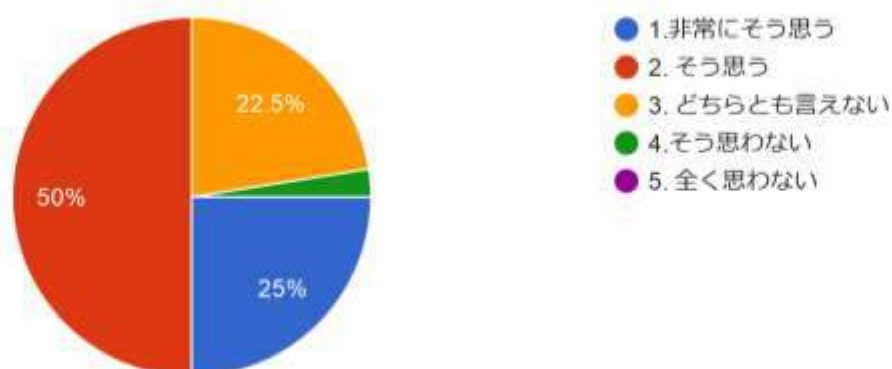


1.非常にそう思う	2.そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
2人	21人	7人	8人	2人
5%	52.5%	17.5%	20%	5%

Q4.

アフリカの方達が日本・神戸で、ICT を用いた社会の課題解決の方法を学ぶことは有意義だと思いますか？

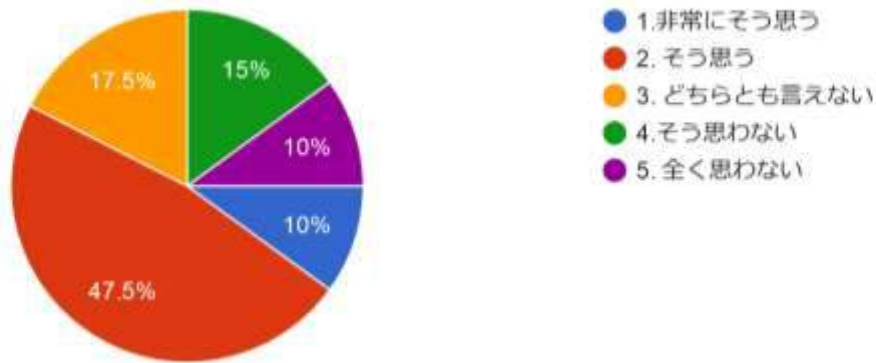
40 件の回答



1.非常にそう思う	2.そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
10人	20人	9人	1人	0人
25%	50%	22.5%	2.5%	0%

Q5. この番組を聞いて、アフリカやルワンダ共和国について関心は高まりましたか？

40 件の回答

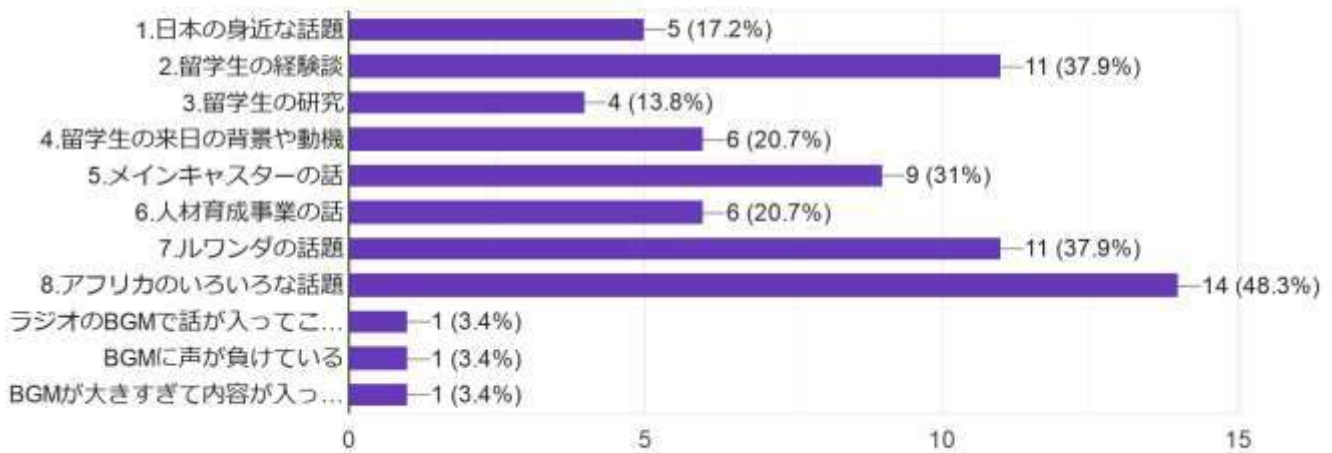


1.非常にそう思う	2.そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
4人	19人	7人	6人	4人
10%	47.5%	17.5%	15%	10%

Q6.

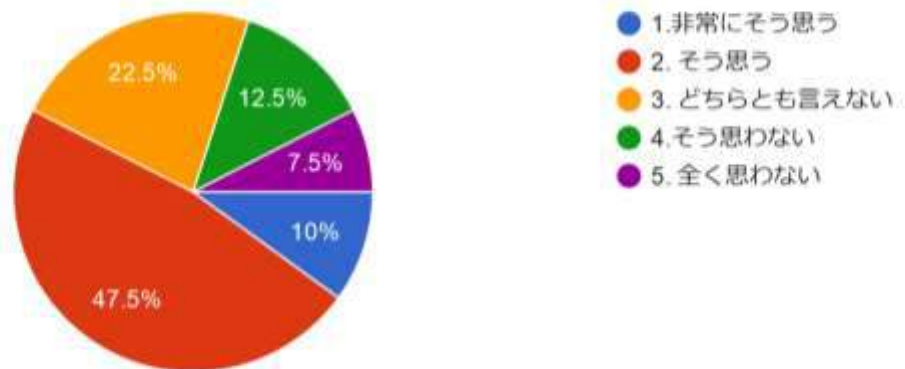
上記で、1.または2.を選んだ方は、その理由を教えてください。（複数選択）

29 件の回答



Q7. この番組を聞いて、ルワンダ共和国での人材育成事業について関心を持ってましたか？

40 件の回答

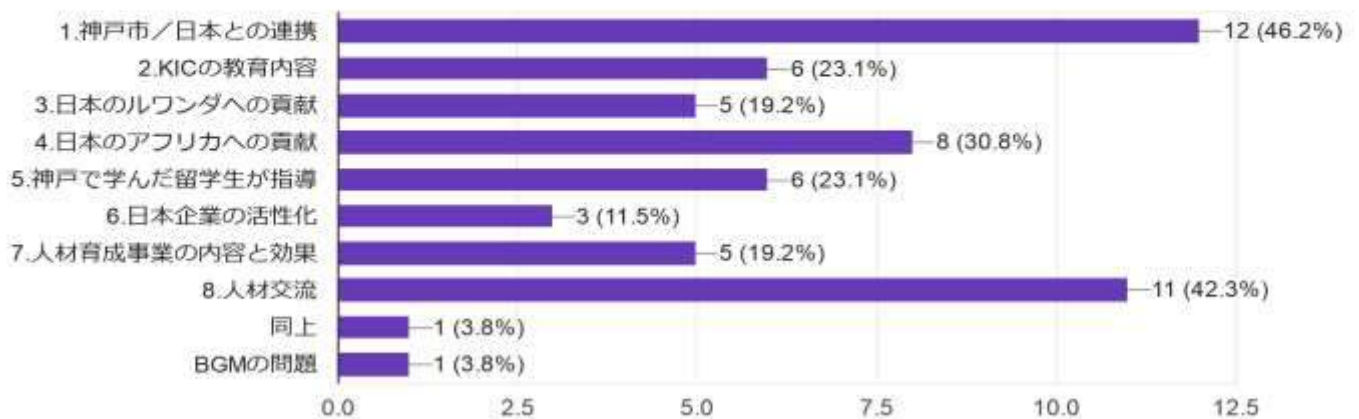


1.非常にそう思う	2. そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
4 人	19 人	9 人	5 人	3 人
10%	47.5%	22.5%	12.5%	7.5%

Q8.

上記で、1.または2.を選んだ方は、その理由を教えてください。（複数選択）

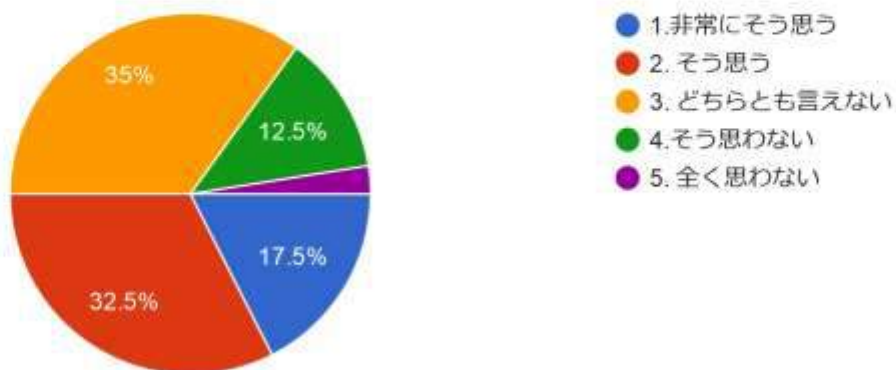
26 件の回答



Q9.

この番組は、アフリカに関心を持つきっかけとして有効だと思いますか？

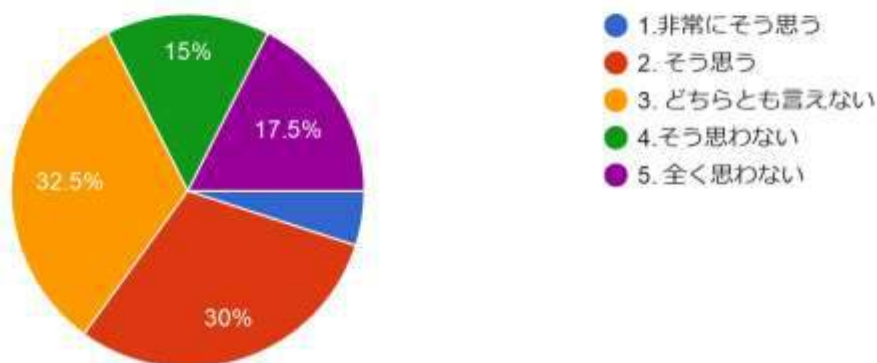
40 件の回答



1.非常にそう思う	2.そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
7人	13人	14人	5人	1人
17.5%	32.5%	35%	12.5%	2.5%

Q10. あなたは、この番組を今後も聞きたいと思いますか？

40 件の回答



1.非常にそう思う	2.そう思う	3.どちらとも言えない	4.そう思わない	5.全く思わない
2人	12人	13人	6人	7人
5%	30%	32.5%	15%	17.5%

Q11.この番組を聞いて、感想をお聞かせください。

40 件の回答

- ・ラジオの運営を改善すべき
- ・内容を簡潔にまとめて欲しい。
- ・もう少しテンションを上げて話したらいいと思います。
- ・大学一回生として、英語が少し難しかったと感じた。内容は面白いんだろうなという気がした。
- ・何かをしながら聞く分には向いていないと思います。集中しないとやっていることがあまり聞こえないことが原因です。
- ・声が小さく、聞き取れない事が多かった。BGM の音量を下げたほうが良いと感じた。
- ・あまり面白くなかった
- ・あまり楽しくなかった
- ・まったく知らなかったアフリカについて少しでも知識が身についたのではないかと思う。とてもよかった
- ・一定で面白みが欠けている
- ・もっと面白くした方がいい
- ・強弱がなく、聞きにくかった
- ・改善の余地多し
- ・ Learned many new about African students, their backgrounds, experiences, daily lives and their thoughts about Japan, quite helpful. But the BGM is a little noisy. Hope it be better.
- ・音楽が流れっぱなしで、メリハリがなく、興味を惹かれなかった。
- ・少し聞き辛い部分が数箇所ありました。
- ・ゲストスピーカーさんが来られるのはとてもいいと思う。もう少し、会話中に音楽などを流してもいいと思った。
- ・ゲストスピーカーさんが来られるのはいいと思う。会話中に音楽が流れてもいいと思った。
- ・BGM の音が大きすぎて、声が聞きにくい
- ・海外ボランティアに興味があるので楽しみながら聞けました。現地の人たちに私たちはどんな事をやってあげられるのか考えられました。
- ・人々が知らないこと番組からたくさん放送されていてすごく貴重な番組だと思います
- ・BGM の音量が大きく、内容が頭に入りにくかった。
- ・分かりにくかった
- ・日常にアフリカを知る手段があまりないので興味深く聴きました。また、ルワンダというジェノサイドのイメージが強く、悲惨なイメージしかなかったのですが、日常の話題を聴くことができ良かったです。(余談ですが、出演者の方が聴きとりやすく易しい英語を使ってくださっていたので、英語の勉強にも良さそうだと思います)
- ・アフリカから日本に来られた若者というだけでも、貴重な存在なので、大切にしたい
- ・今まで一度も聞いたことがなかったのですが アフリカの方をみじかに感じれる面白番組だと思いました。これからは家事をしながら聞こうと思います。少し聴き取りにくい時があるのでバックの音量を少し下げて欲しいです。
- ・第一回と比べて、22 回は、とても聴きやすくなっていた。もともとアフリカに対して特別な興味がなかったのですが、正直なところ、内容はそこまで入って来てはいいませんが、それでも 30 分聞けました。関心のある人が聞いてくれたら、もっと楽しめるのではないかや、と思いました。
- ・ルワンダやエチオピア等アフリカ各国から日本、特に神戸で IT や建築、農業等国家建設に肝要な知識を習得して、アフリカ各国の国家育成に役立てる、という壮大なプロジェクトを草の根レベルで展開しており、その内容をこの番組を通じて公にする事は非常に重要で、他の地域も賛同してくれればその輪が神戸から拡がり、日本人のアフリカ各国に対する意識も高まり、今後様々な分野での拡がりに繋がっていけば良いと思います。また、話の流れが日本語や英語の応え方と違い、遠い話題から核心に向かっていく、そういう言語文化であると感じました。また、英語の方が内容がやや濃い印象を受けました。

- ・第1回はBGMの音量が大きく、残念ながらトーク内容が理解しづらかったが、最近は改善されて理解しやすい。第17回は、日本側から見たアフリカの話が面白かった。
- ・センダ先生、船山さんのお話は内容が素晴らしいです。日本語を聞いているので、留学生の話の通訳をもう少し丁寧にしていただけると聞きやすいです。短時間番組で難しいと思いますが、中国など他国の関与の実態も知りたいです。
- ・体験を通した話が聞けるので、遠くにある話ではなく、とても身近な話を聞いている感じがするところが、この番組のいいところだと思います。個人的には特に留学生の話は、とてもおもしろいです。気づいたこと、感じたことを「ことば」で表現して、それを聞いているわたしもまた新しい気づきや感じたことが出てきます。それから、留学生の方々も、教員の方々も、KICに関わっているの方々も、みんな一緒になって試行錯誤している姿が番組を聴いていると感じられます。最初から一つの答えがあるのではなく、みんな一緒になって考えて探して、よりよい社会のために、という部分が伝わってきます。これからも番組を楽しみにしています。
- ・遠くの国から日本、しかも神戸を選んでくださり、嬉しい。神戸は違いを受け入れ認める土壌が、他の地域よりは出来ていると思う。また、各留学生の方々が多様な問題点を解決しようとしているのか、興味がある。ICTを日本から押し付けるのではなく、留学生の皆さんが自国の将来を考え、具体的に解決していく様子は、本国の皆さんにとっても心強い事でしょう。アフリカのイメージも紛争など、厳しい情報が記憶に新しいが、ICTによって基幹産業の農業などが、一般の人々に専門家の知識がいきわたり、底上げとなり、世界の台所として明るい希望が持てるのでしょうか。アフリカの情報がなかなか入らない中、留学生の皆さんの生の声がきける貴重な番組だと思います。慣れるのに大変で体重も随分減ったとか、気になりました。ホームシックにならない様に、サポートされているようですが、日本での良い思い出が沢山出来ることを祈ります。
- ・アフリカは遠い国というイメージでしたが、この番組を聴いて神戸とアフリカ、特にルワンダといろいろな交流が行われていることを初めて知り、感銘を受けました。ルワンダについては、「ルワンダ大虐殺」のイメージから「危険な国」と漠然と思ってましたが、自分の認識不足が恥ずかしくなりました。
- ・多くのメディア露出することで情報発信の機会が増えることを期待します。5分くらいのダイジェスト版などで拡散する方法もあるかもしれません。
- ・神戸とアフリカが連携して行なっている取り組みについて知るきっかけとなった。日本から外国に行ったとして、その国で日本のことを語れる番組があるなら貴重だと思うので、アフリカからの学生さんにとって神戸の印象が上がるきっかけになるのではないかと感じました。
- ・映画 遠い夜明け 以来、アフリカについてまとまって知る機会はあまりなかったです。古いー！あ、緑のサヘル運動は知っています。今はアフリカといえば中国の進出を思うので。知らなかったなあ、コツコツとこんな事業に打ち込んで努力している方達がおられるのですね。決して上からの目線ではなく、番組を聴いて、社会変革という言葉が身近な言葉であることを実感しました。テーマ曲がいいですね。プログラムの中にももう少しアフリカの音楽とかも入れればいいのでは？ただ、スマホ年代ではない私にとってはこのプログラムを聴くこと自体が手間がかかります。
- ・まず、放送は沢山きいたが、何回目の放送であるかを聴きのがしたので、一回目と最後の回のみチェックを入れました。テレビ番組 こんなところに日本人で千原せいじが、アフリカで活躍しているJICAの若者を紹介していた。私はこのような活動を通じてこそ日本は世界平和に貢献できると確信していたが、今回このわいわいの放送に触れることにより、アフリカからの若者を日本に受け入れる活動も知り、その思いをさらに強くした。この放送をぜひ沢山の人達にきいて貰いたいと思います。頑張ってください
- ・今までアフリカは遠い存在だったが、番組を通じて身近に感じる事ができた。
- ・口元でゴモゴモと喋る時があるので、少し口を大きく開けてはっきりと発音したり、明るい声を意識されたらもっといいのではと思いました。内容は十分に素晴らしいです。女性パーソナリティの方の声が10分ほどいなくなった時があったので、うなづきや相槌を少しでいいので声に出してみたいかがでしょうか。ぜひ楽しんで続けて行って欲しいです。
- ・もう少しBGMを小さくしたほうが、聴きやすいと思う。せっかく良い話をしているのに、BGMが目立つのが残念。

添付資料①-2

ルワンダ共和国・コンゴ民主共和国・ウガンダ共和国を中心としたアンケート調査

日時:2019年6月

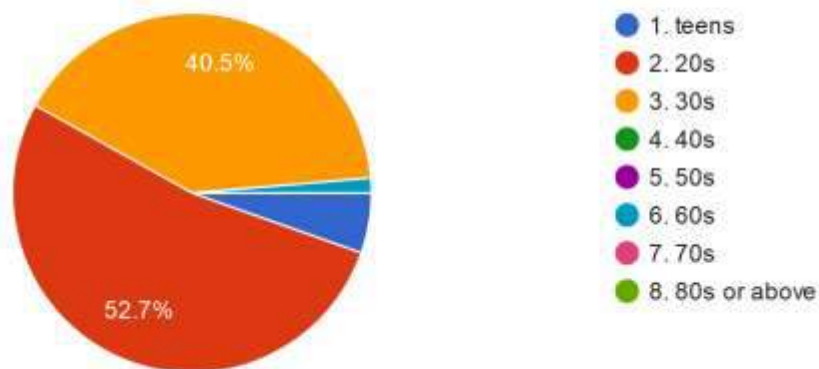
件数:76件

アンケートの基本的形態

第1回目のこの番組制作の意図を紹介する番組を視聴いただき、その後その他 FMYY のサイトにある22番組(第1回を含む)を無作為に聞いていただいた後、サイト上にある設問13に答えていただく形態。

Q12. You are in your

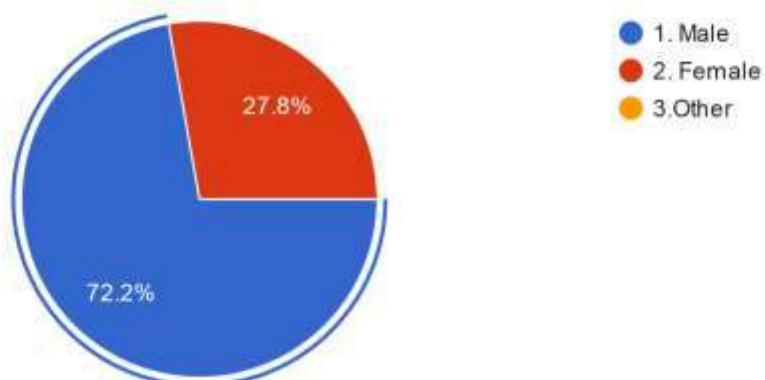
74件の回答



1.10代	2.20代	3.30代	4.40代	5.50代	6.60代	7.70代	8.80代
4人	39人	30人	6人	0人	1人	0人	0人
5.4%	52.7%	40.5%	15%	0%	10%	0%	0%

Q13. You are

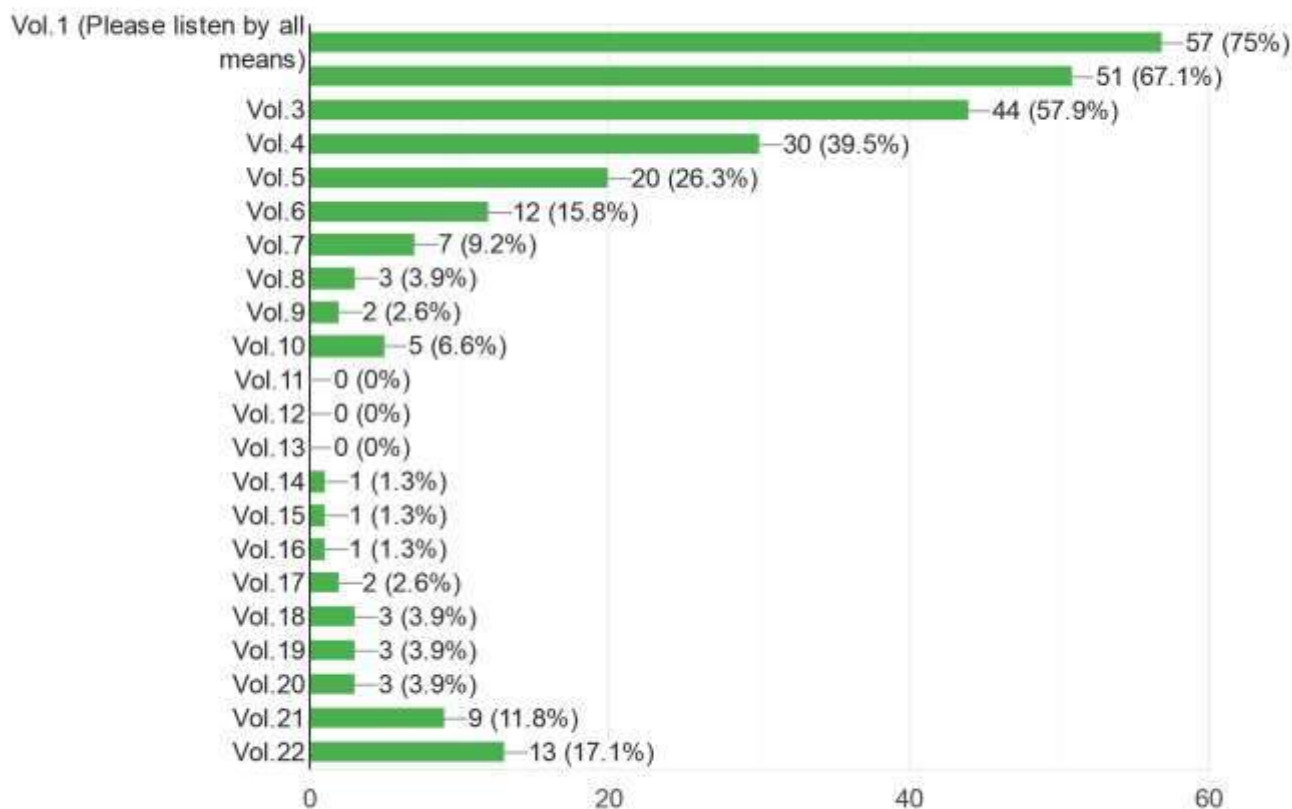
72件の回答



1.男性	2.女性
52人	20人
72.2%	27.8%

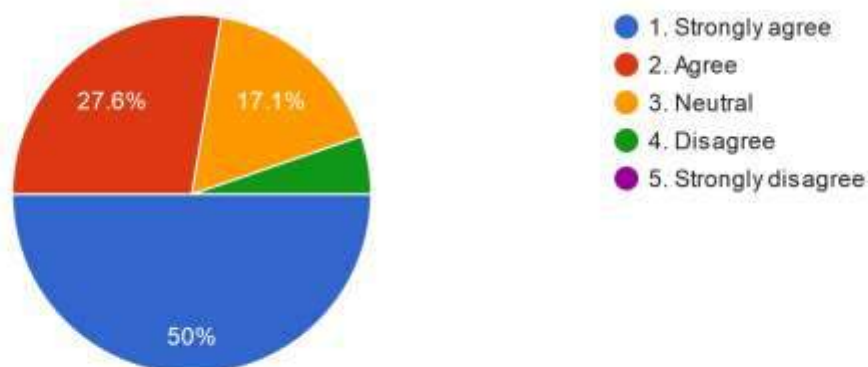
Q1. Which radio show did you listen to? (Please listen to at least 2 shows.)

76 件の回答



Q2. Were you interested in Japan before participating in this survey?

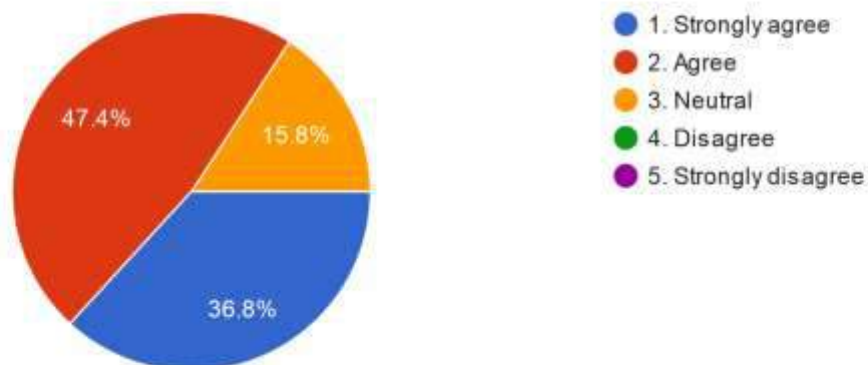
76 件の回答



1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
38 人	21 人	13 人	4 人	0 人
50%	27.6%	17.1%	5.3%	0%

Q3. Did you understand the purpose of this program by listening to the first show (vol.1)?

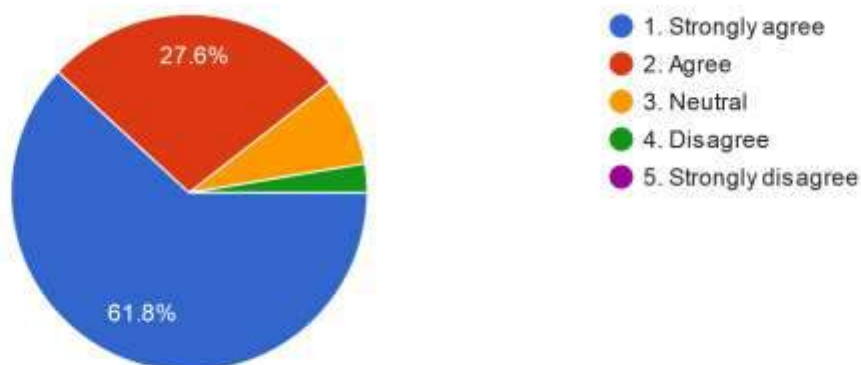
76 件の回答



1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
28 人	36 人	12 人	0 人	0 人
36.8%	47.4%	15.8%	0%	0%

Q4. Do you think it is meaningful to study in Kobe, Japan about the ways to solve social issues through ICT?

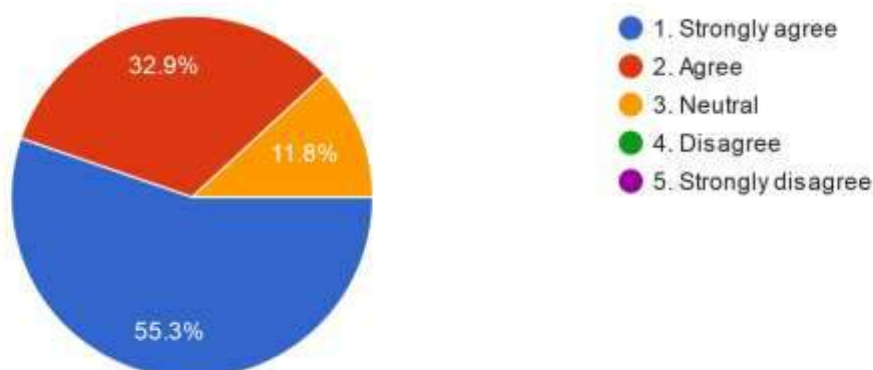
76 件の回答



1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
47 人	21 人	6 人	2 人	0 人
61.8%	27.6%	7.9%	2.6%	0%

Q5. After listening to this program, are you further more interested in Kobe city and Japan?

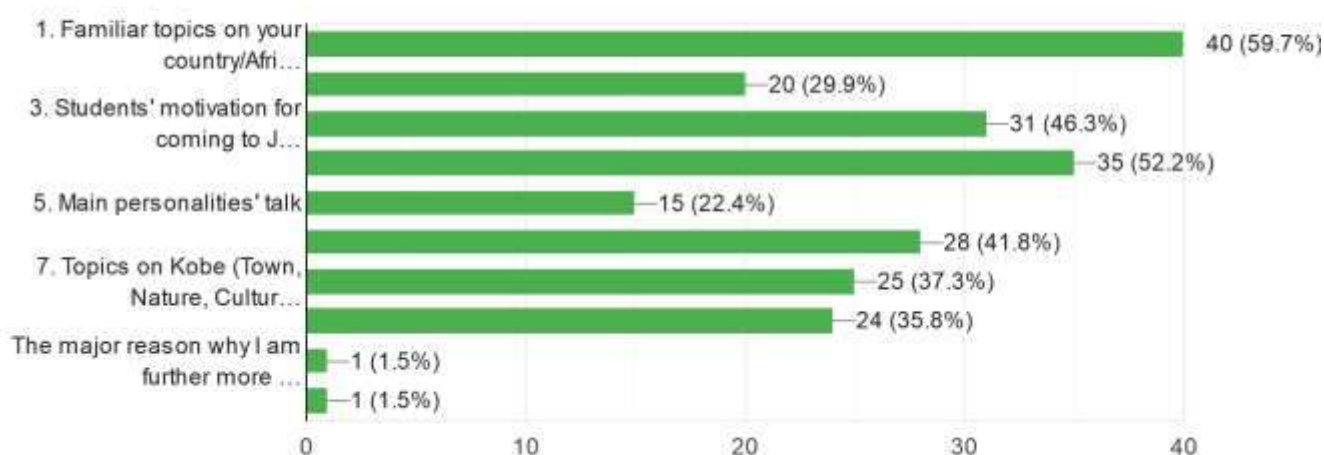
76 件の回答



1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
42 人	25 人	9 人	0 人	0 人
55.3%	32.9%	11.8%	0%	0%

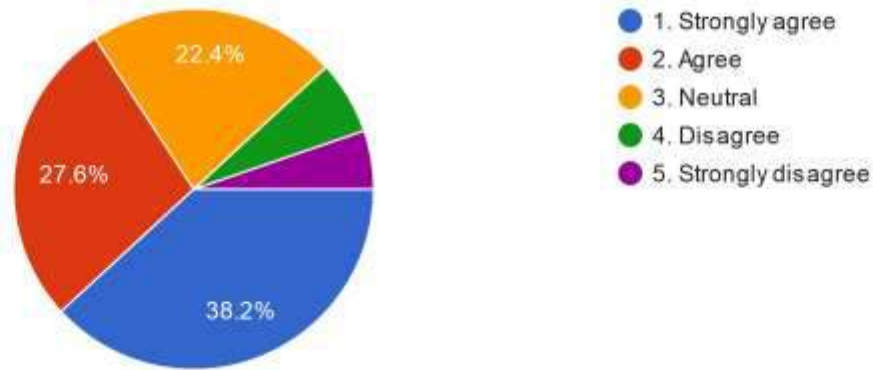
Q6. Please choose the reason(s) for your answer to the above question. Choose all that are relevant.

67 件の回答



Q7. After listening to this program, are you more interested in the human resource development project in Rwanda?

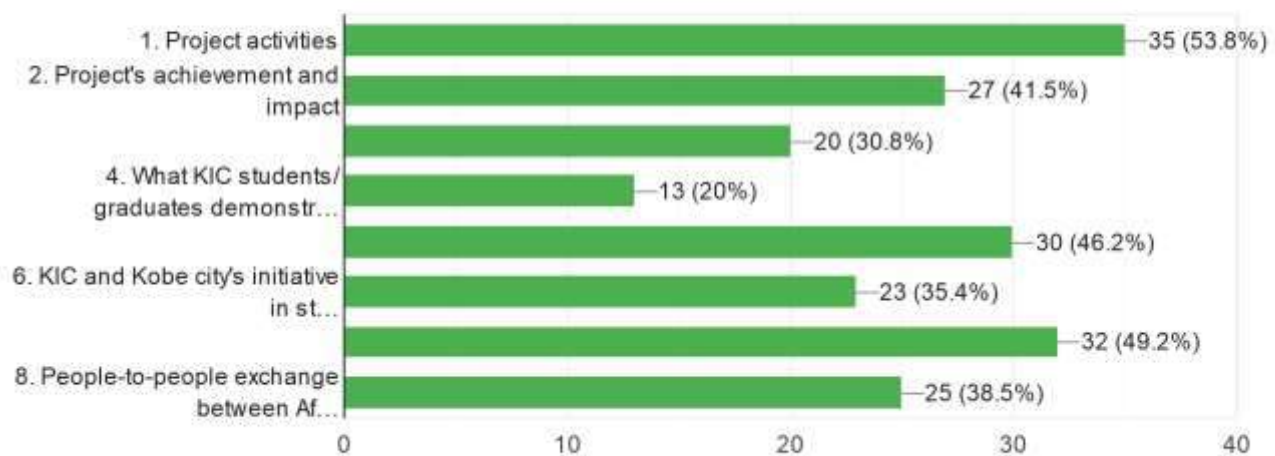
76 件の回答



1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
29 人	21 人	17 人	5 人	4 人
38.2%	27.6%	22.4%	6.6%	5.3%

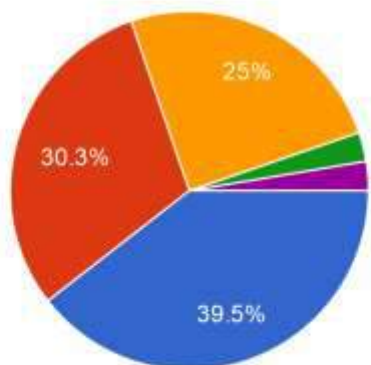
Q8. Please choose the reason(s) for your answer to the above question. Choose all that are relevant.

65 件の回答



Q9. Do you think this radio program works as a way to get people interested in Japan or Kobe?

76 件の回答

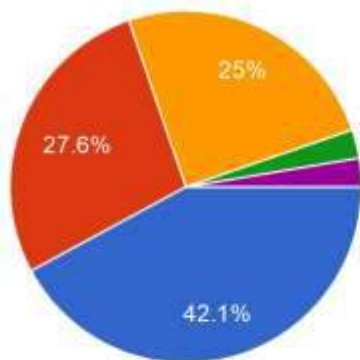


- 1. Strongly agree
- 2. Agree
- 3. Neutral
- 4. Disagree
- 5. Strongly disagree

1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
30 人	23 人	19 人	2 人	2 人
39.5%	30.3%	25%	2.6%	2.6%

Q10. Are you interested in listening to more shows of this program?

76 件の回答



- 1. Strongly agree
- 2. Agree
- 3. Neutral
- 4. Disagree
- 5. Strongly disagree

1.Strongly agree	2.Agree	3.Neutral	4.Disagree	5.Strongly disagree
32 人	21 人	19 人	2 人	2 人
42.1%	27.6%	25%	2.6%	2.6%

Q11. Please share your feedback about this program.

76 件の回答

- It's a very relevant and additive program
- I would love to have a scholarship
- I would love to see more initiative from your country in Africa
- It is nice
- it is very interested
- This program is really helping Rwanda especially in supporting young entrepreneurs to reach their goals.
- The program is highly contributing both to Rwandans and the Japanese. And with increased efforts from both sides will bring very satisfying results.
- The program is very interesting. I am the one who tried to study in on the first promotion I already graduated I was learn IoT and Tankyu practice which is cool for startup project or young entrepreneur for learning who they can solve problems depending on social and economic
- the program is very interesting, more marketing is needed for the news to be expanded to many people
- This Program is very good and unique if I get this opportunity, I will achieve my goals and on time, I am strongly interested in Kobe city and Japan and I would like to thank JICA for this program. Thank you
- Am very interested of this program
- The main challenge we are facing in Africa is lack of inspiration contents from practitioners especially in entrepreneurial journey, I think this program will strengthen our capabilities in diving deep in self development as well cross-culture within Rwanda and Japan especially Kobe city. Thank you practice also makes us to understand well the problems we are facing in an easy way.
- KIC is playing a very important role in Africa by providing ICT programs and education that change lives and solve issues of million people in Africa, I would like to extend my gratitude and encourage KIC to keep up with the good work.
- Thank you a lot for the support that you give to the Africa education system.
- This program is very useful because information reach big number of people in an easiest way so the more people know the contribution of Japan in ICT transformation as well as in other fields such as agriculture, construction..... The more they will get interested in such fields of study. not only studying but also will lead to job creation to Rwandan people. thanks to Japan.
- This program is so essential if considered in the development of Africa, It provides for development of Human Resource and ICT skills which are key essentials in development. More of this should be extended even in other parts of Africa outside Rwanda
- Its interesting program and more should be done especially videos which are more engaging
- Its constructive
- The panelists are well chosen and deliver exciting achievements, plans and formulation of structures to solve social and economic problems using ICT; VERY interesting. Kobe Japan's vision is great.
- I appreciate being apart of this big affirmative taking place between a great country and Africa.
- It is a good way to link East Africa to Japan Kobe.
- Yes

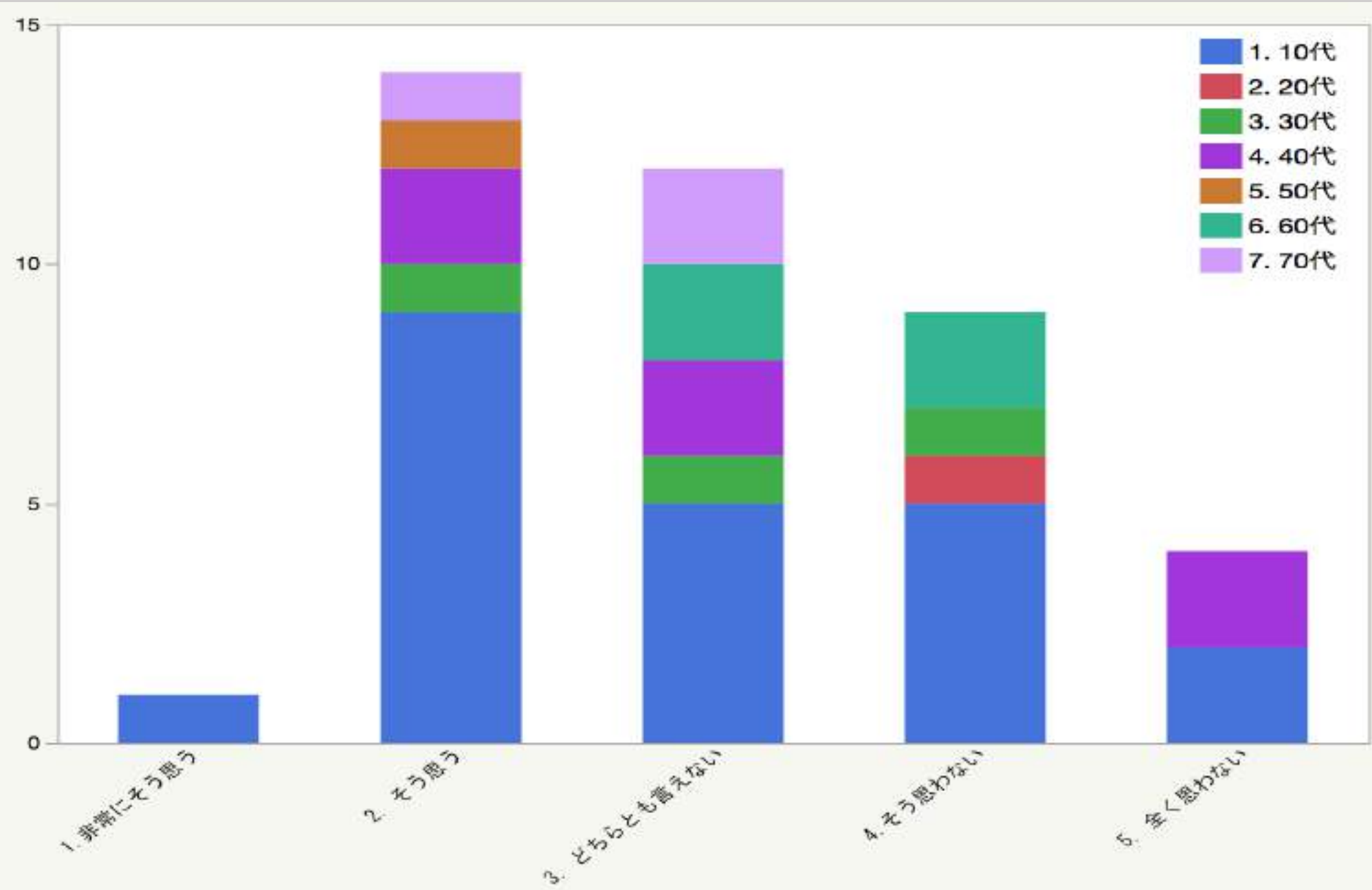
- It is very informative.
- I am not generally an ICT person but interested in development
- It is a good initiative
- its a very good program
- It is a great initiative
- fantastic
- We would like to get new audio not in volume but if few are available, share them before not waiting to be many because its boring.
- Audios are too many and most of us has no time to listen to all
- Less audio will be much better
- Please make audio short and get to the point
- I think its a good idea for Japan to participate in the African development and work hands in hands.
- This is a best program ever for Africans.
- Improvement should be made on the size of the audio because its takes too many time.
- Please give us scholarship so we can benefit more on this program.
- I really enjoyed the content. I find it massively instructive.
- great news for the african child
- it is a very good initiative and so promising
- GREAT
- It's amazing for sure! Keep it up. Stay blessed
- I liked the fact that This program covers the ICT for development topic. and i'm very interested.
- i guesse more must be intersted in this program
- Friends
- It is really good it encourages many students to in japan
- Its is very good to be listened
- Good programme and should be advertised more to Rwanda for more awareness. And also spread to it's neighbouring in Africa
- I think it's a good initiative.
- Kobe should also come to Uganda.
- Lack of proper bandwidth is a problem to the students. There needs to be some kind of live interaction
- We would love to have you support us in Kivu North (Goma)
- Why did you mention Rwanda not Congo?
- Please give me a scholarship to study at your university.
- Please come to goma in DRC
- I think you need to come on the ground and see with your own eyes what is happening.
- J' emairai avoir l' opportunité d' étudié dans votre etablissement.
- Come to congo
- I need a scholarship
- Come to DRC and impact lives
- The program is good and i think it will leave a positive impact in African society
- Your program is good

- I hope one day the program will help Africans to be more pro-active
- You are doing an amazing job
- I think the radio audio are too many and takes lot of time to listen to all
- We recognise how much you are precious to our continent
- I would love to get a scholarship for my masters degree
- You need more advertising for people to understand your purpose
- I appreciate your effort to make Africa a better place by giving out your best by empowering our young generation.
- The program is good and radio program itself, but i think the radio program takes much time and there are too many to listen to all.
- Welcome to Africa
- My name is Asnar and i would like to know much about you. This program is cool
- I am a software engineer at Goma and it is a pleasure to answer your survey which i think it will be used to strengthen relationship with Africa.
- This program is good and let us have a contribution to it.

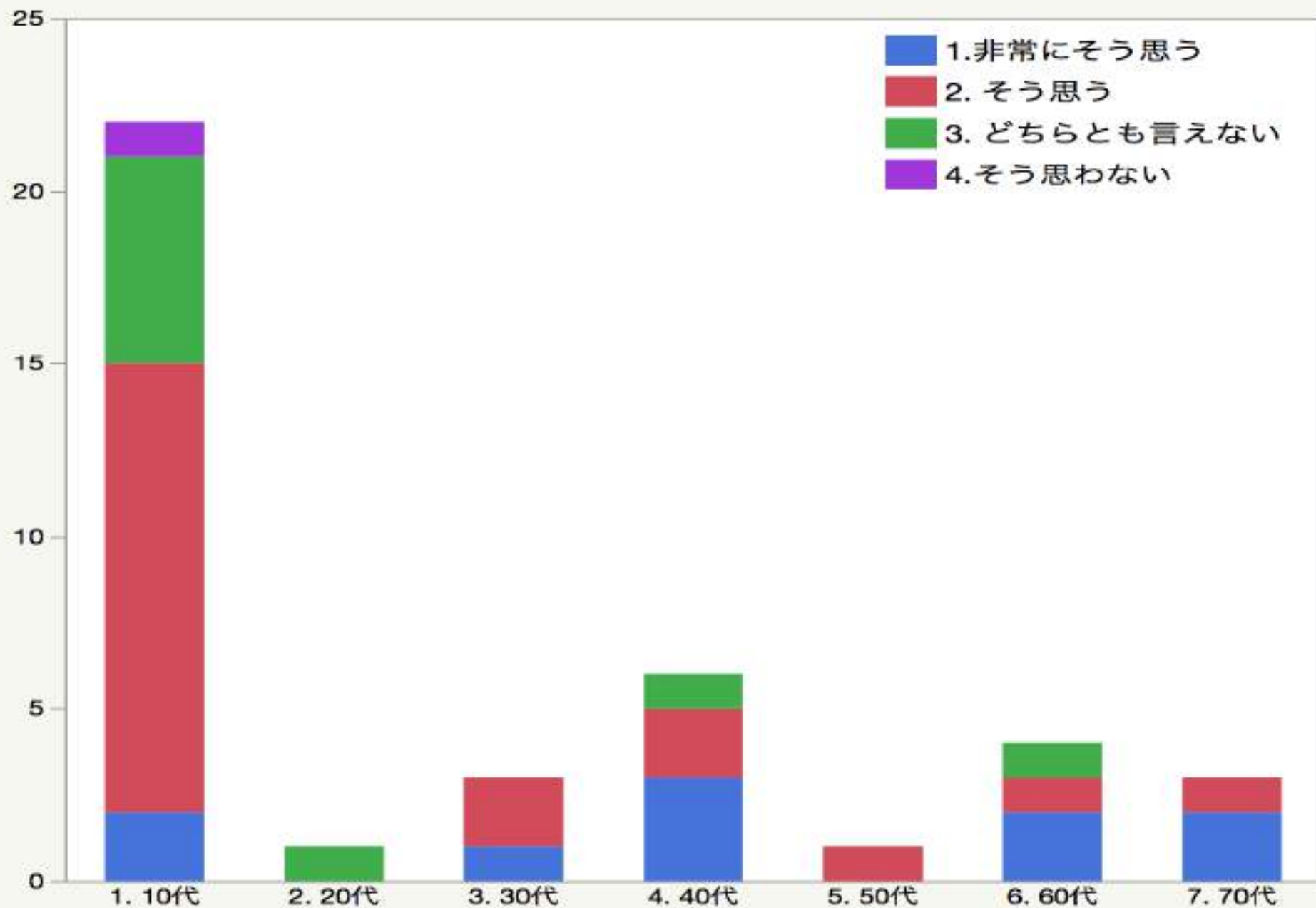
添付資料②-1

国内アンケート結果からの相関図

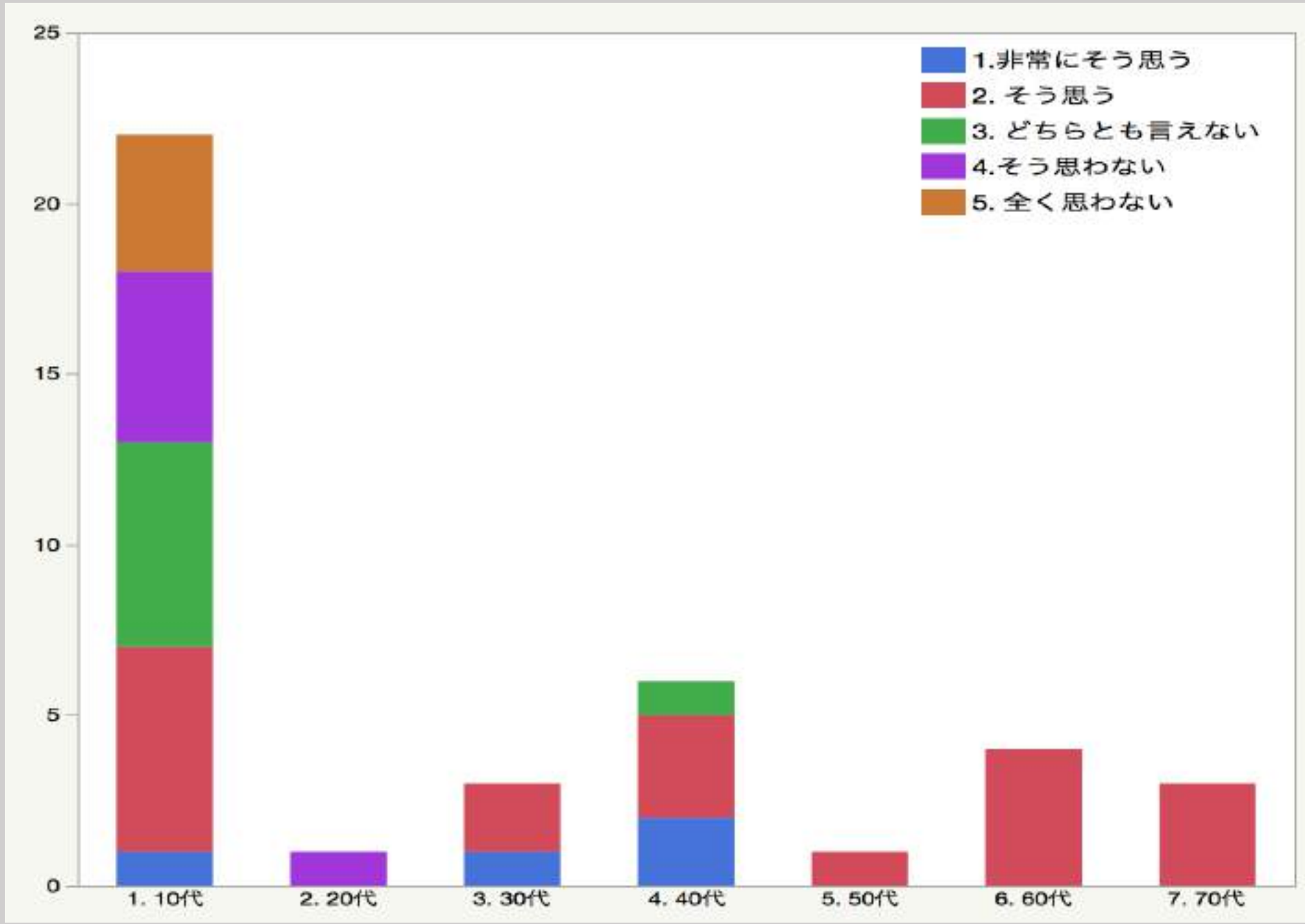
○12年代は？ / ○2・以前から、アフリカに関心
はありましたか？



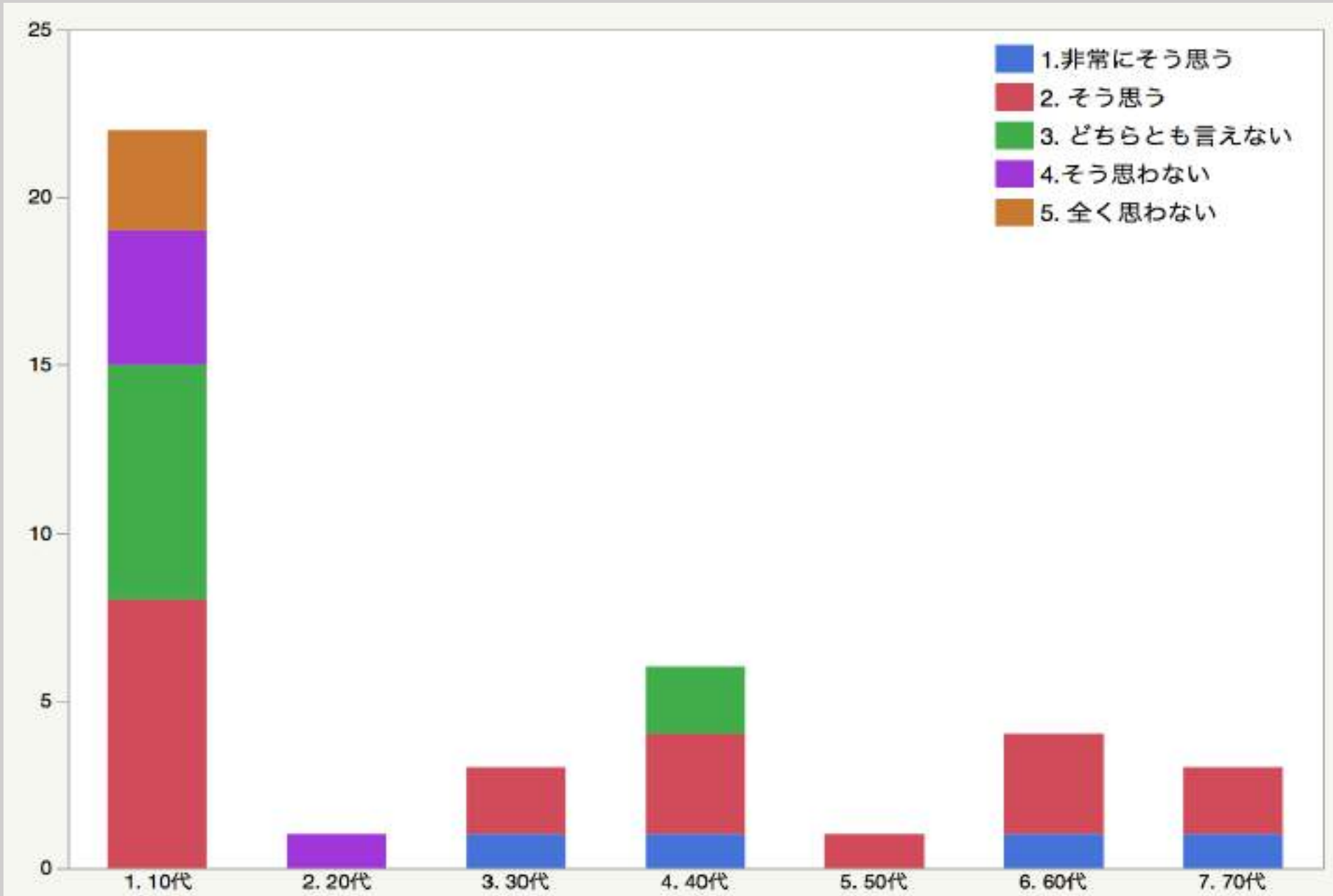
○12年代は？／○4・アフリカの方達が日本・神戸で、ICTを用いた社会の課題解決の方法を学ぶことは有意義だと思いますか？



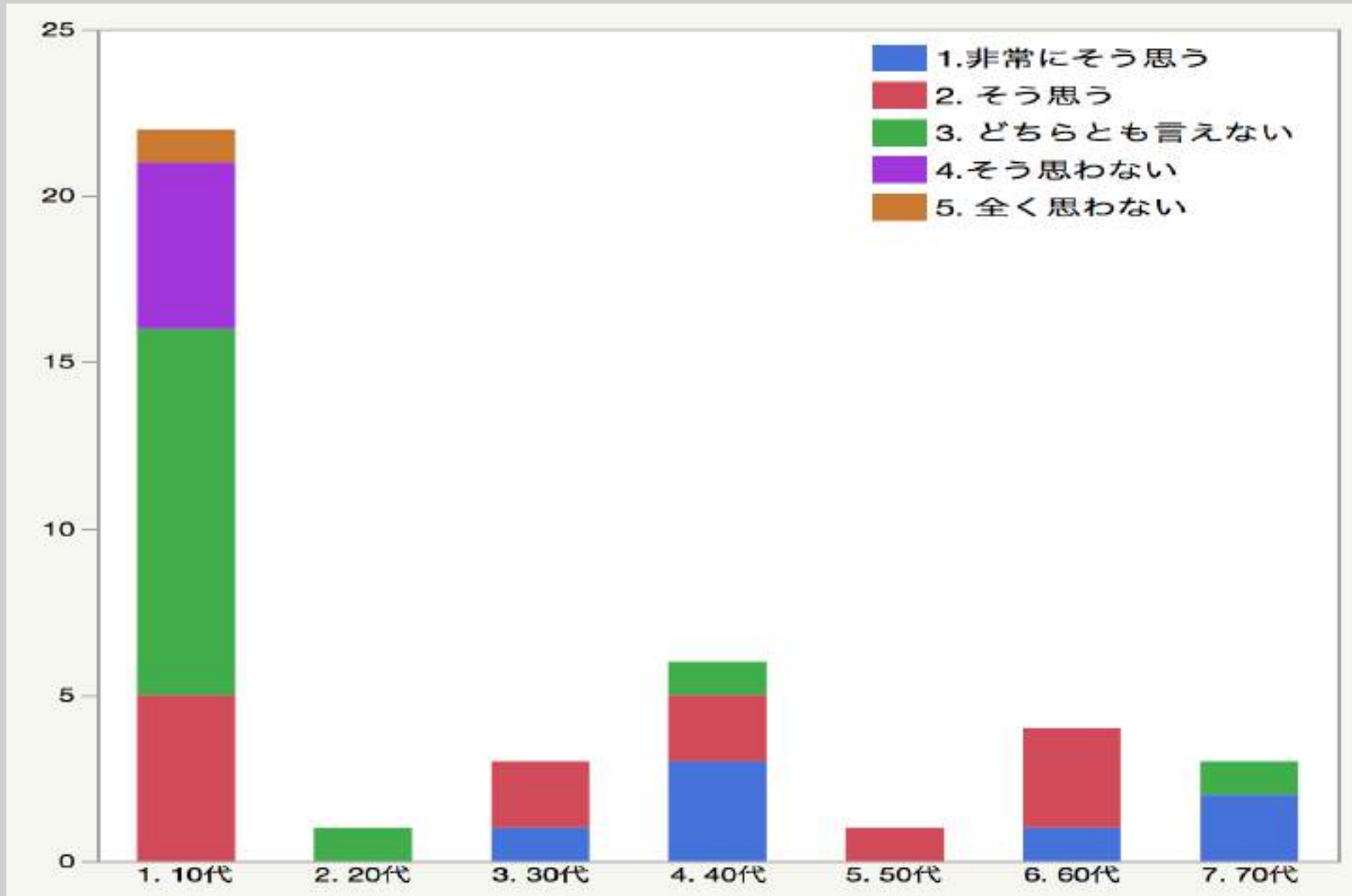
012年代は？ / 05・この番組を聞いて、アフリカやルワンダ共和国について関心は高まりましたか？

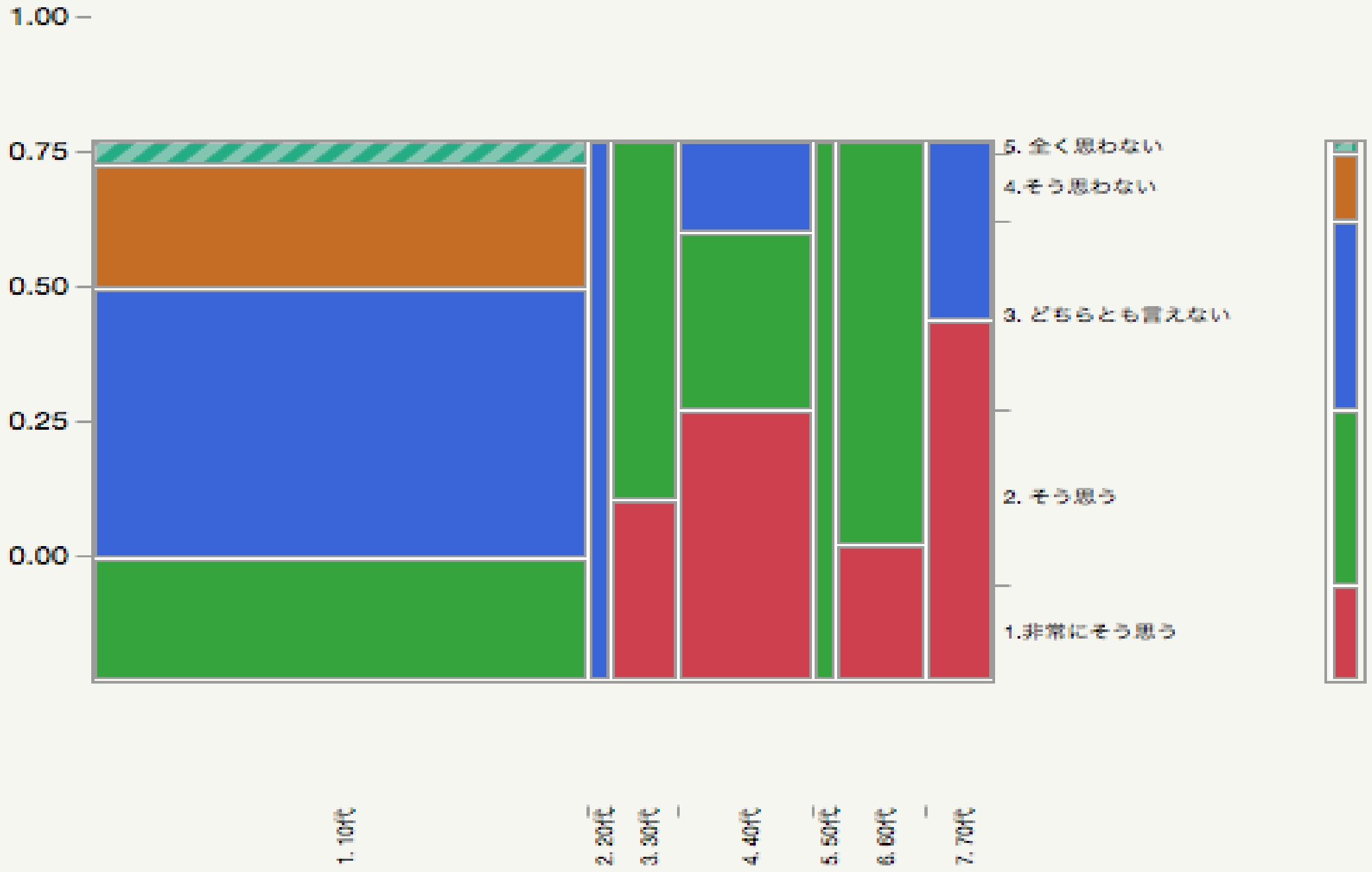


012年代は？／07・この番組を聞いて、ルワンダ共和国での人材育成事業について関心を持てましたか？

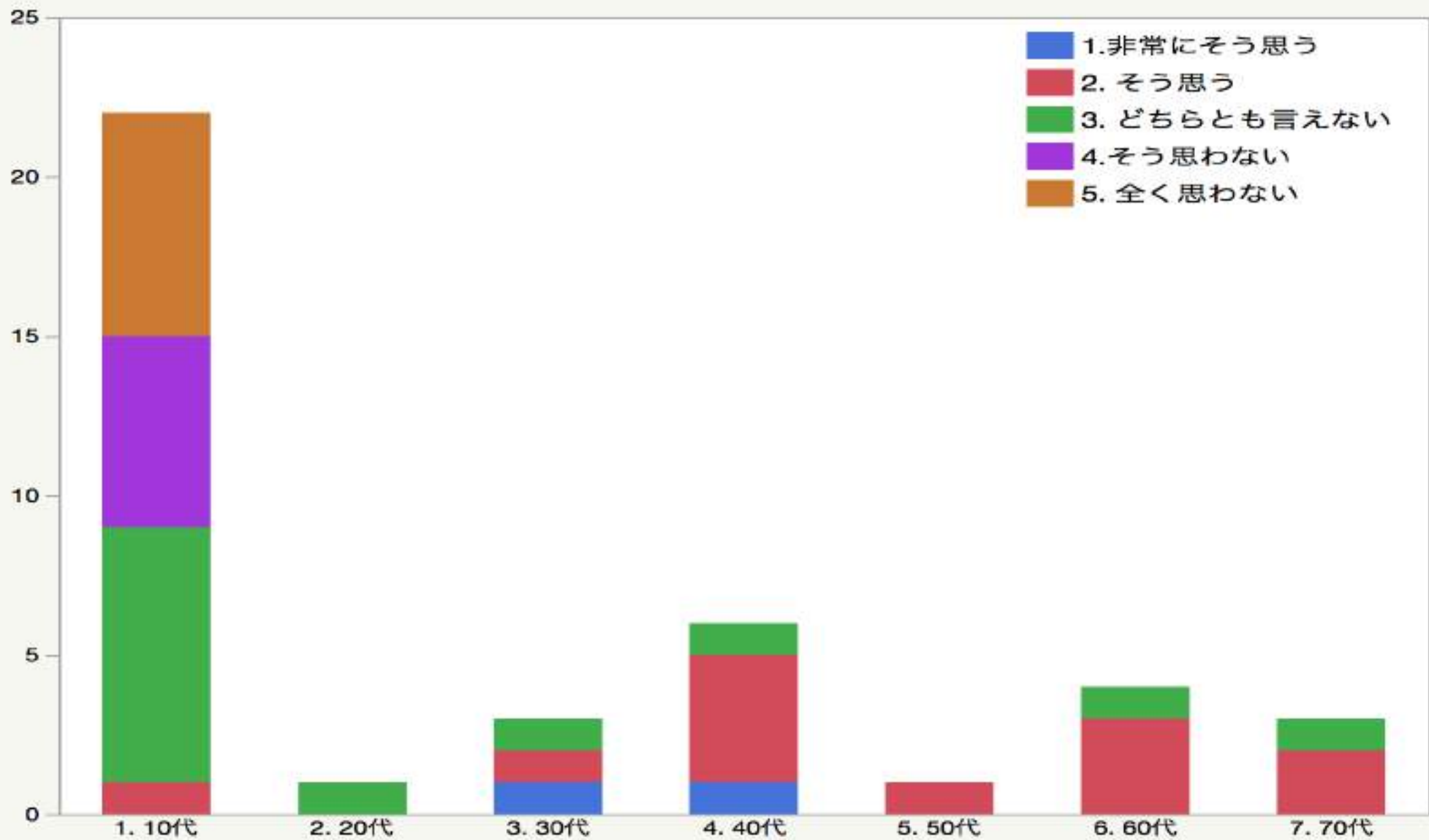


012年代は？ / 09・この番組は、アフリカに
関心を持つきっかけとして有効だと思いますか？

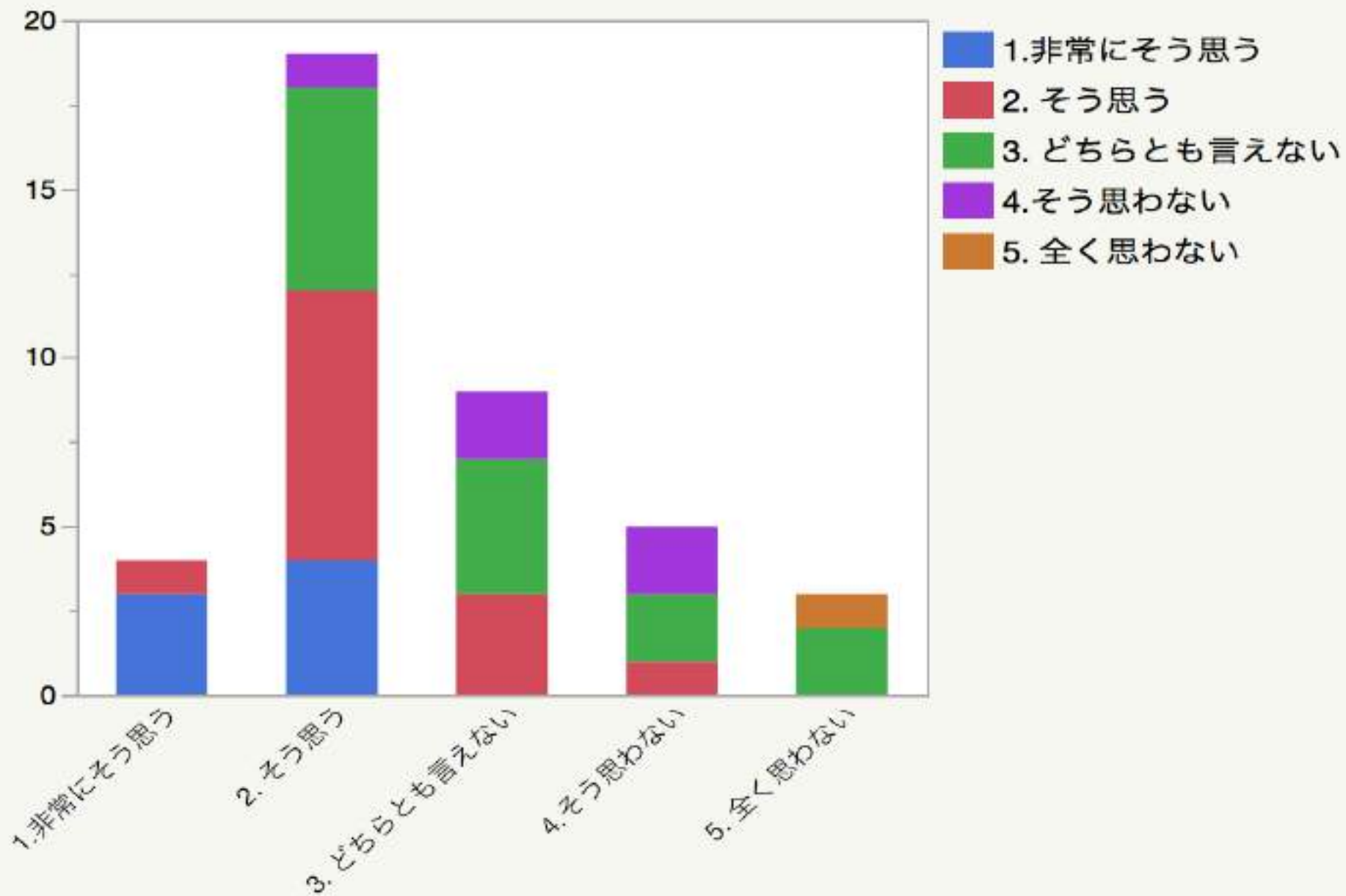




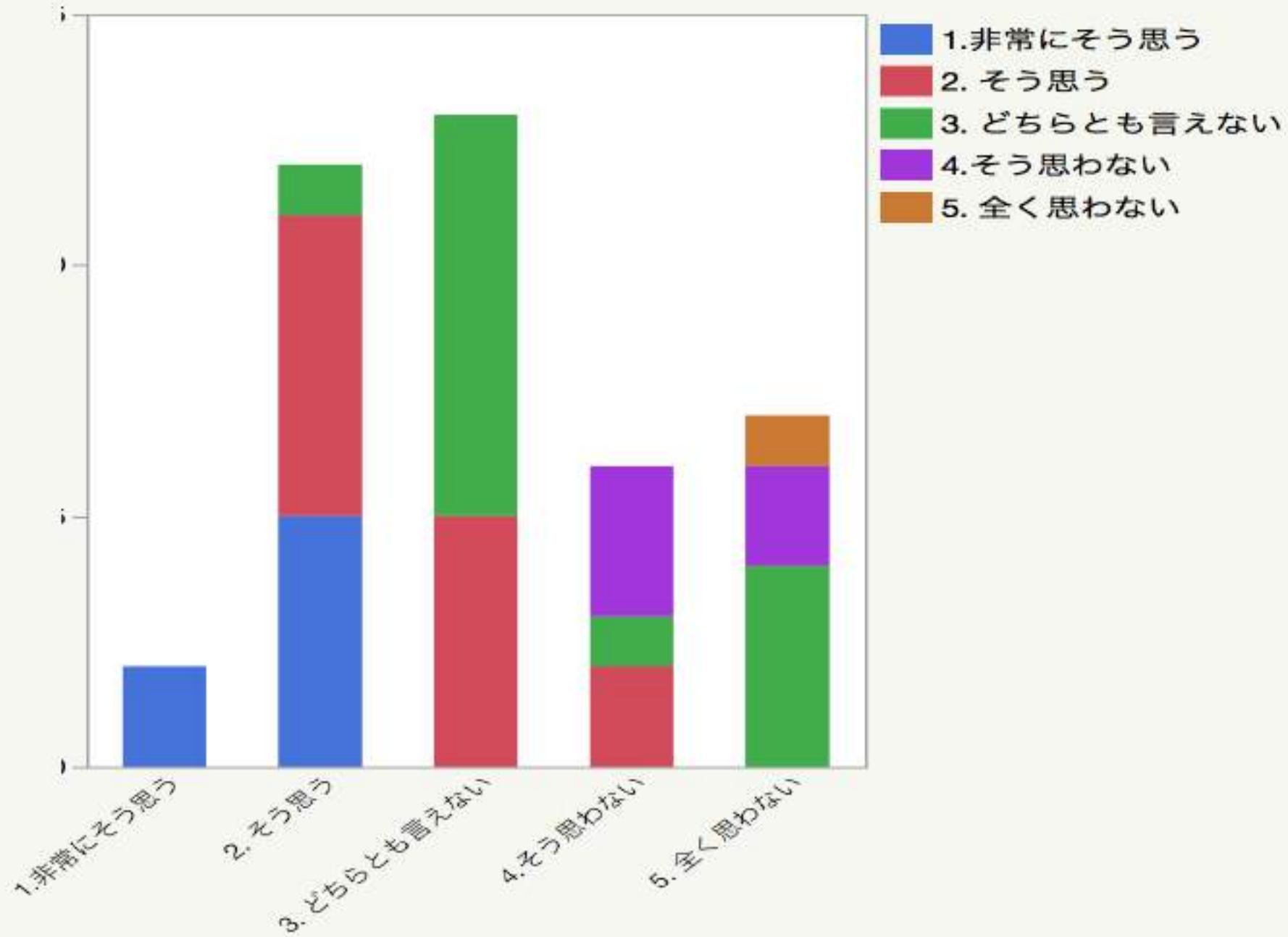
012年代は？ / 09・この番組は、アフリカに関
心を持つきっかけとして有効だと思いますか？



○12年代は？
 ○10あなたは、この番組を今
 後も聞きたいと思いますか？



×軸：07・この番組を聞いて、ルワンダ共和国での
 人材育成事業について関心を持てましたか？
 <軸：09・この番組は、アフリカに関心を持つきっ
 かけとして有効だと思いますか？

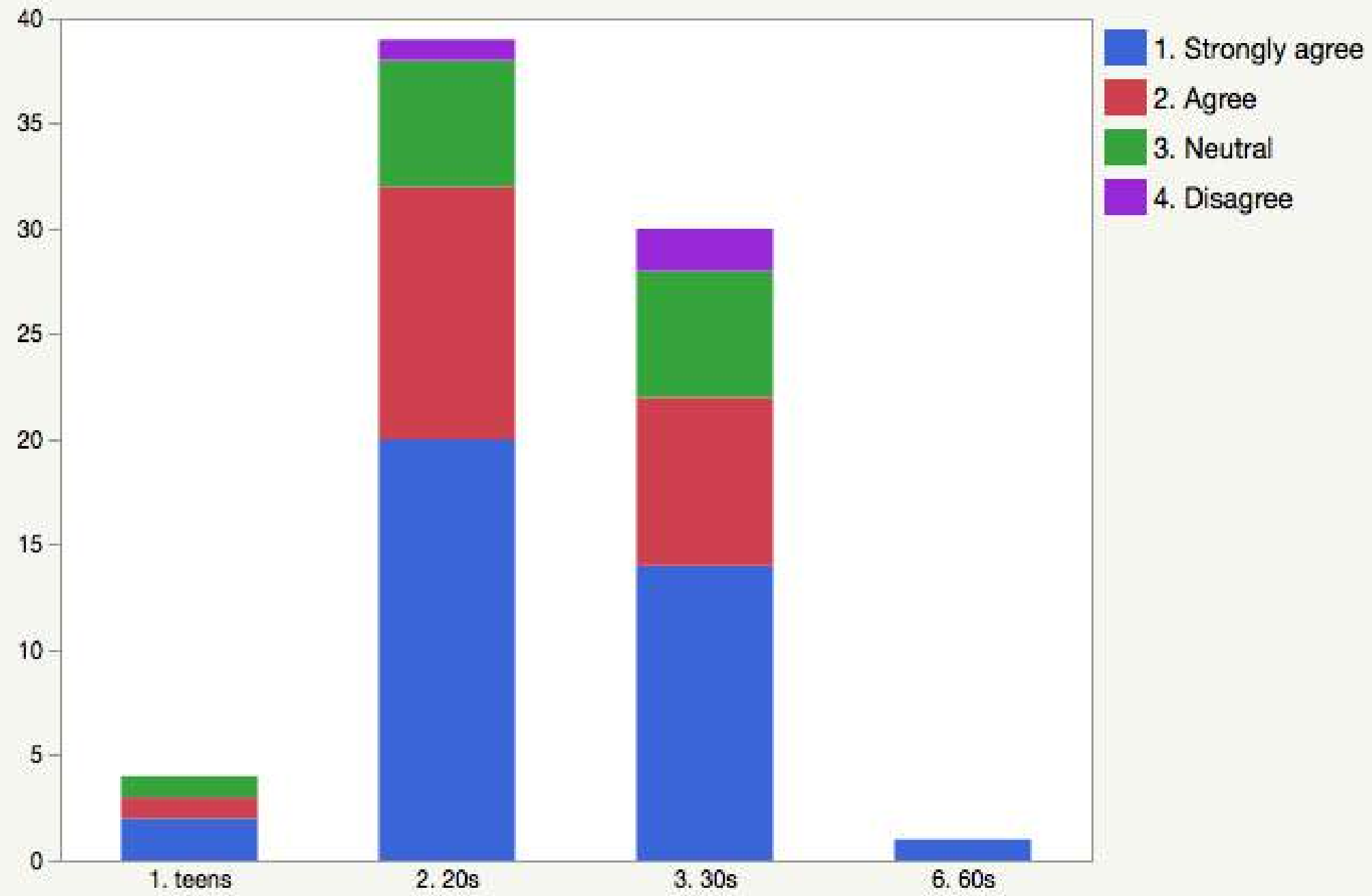


×軸：0・10・あなたは、この番組を今後も聞きたいと思
 いますか？
 <軸：0・9・この番組は、アフリカに関心を持つきっ
 かけとして有効だと思いますか？>

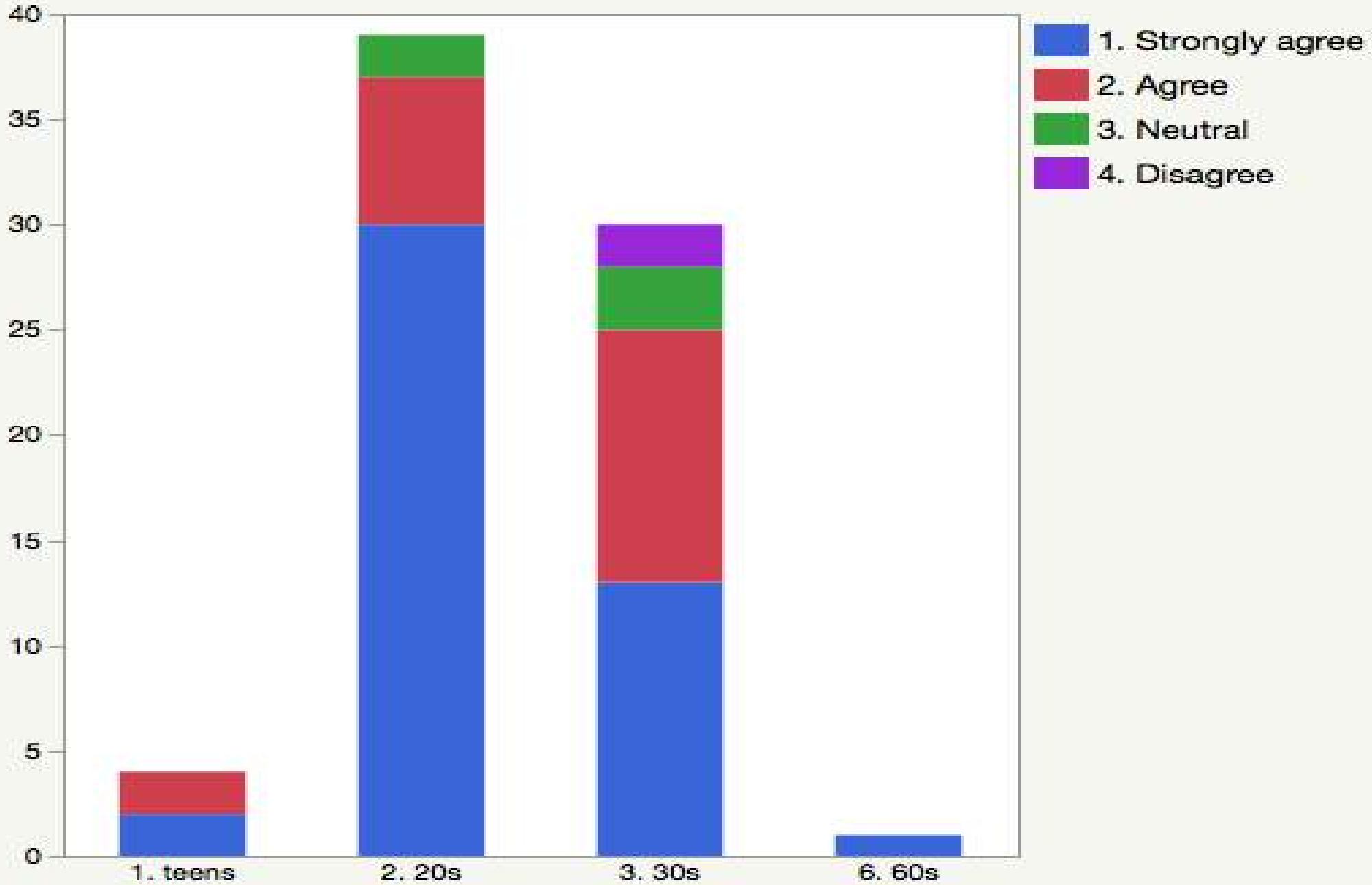
添付資料②-2

アフリカ側アンケート結果からの相関図

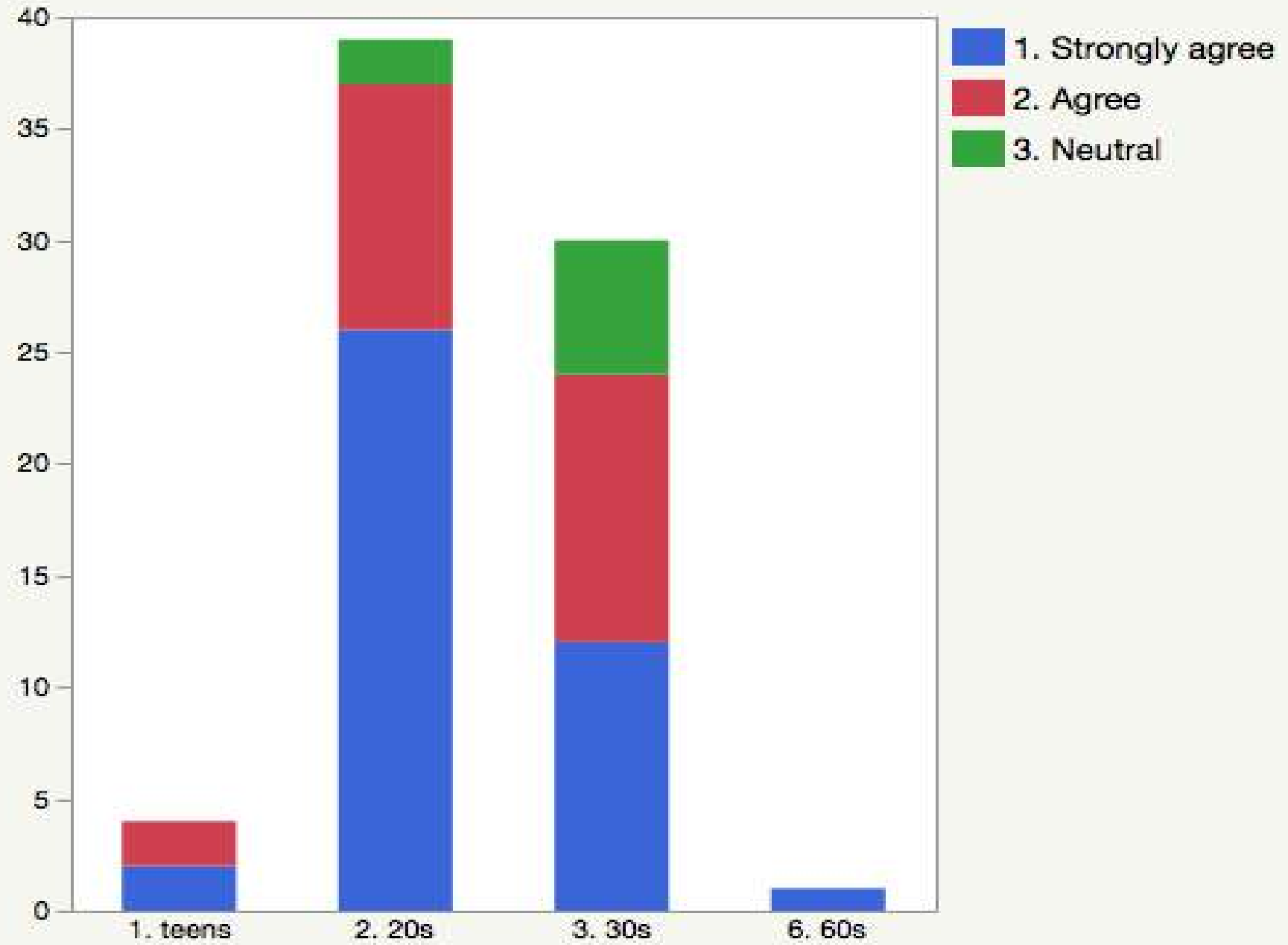
X軸：Q12 . あなたの年代は？
Y軸：Q2 . Were you interested in Japan before participating in this survey?



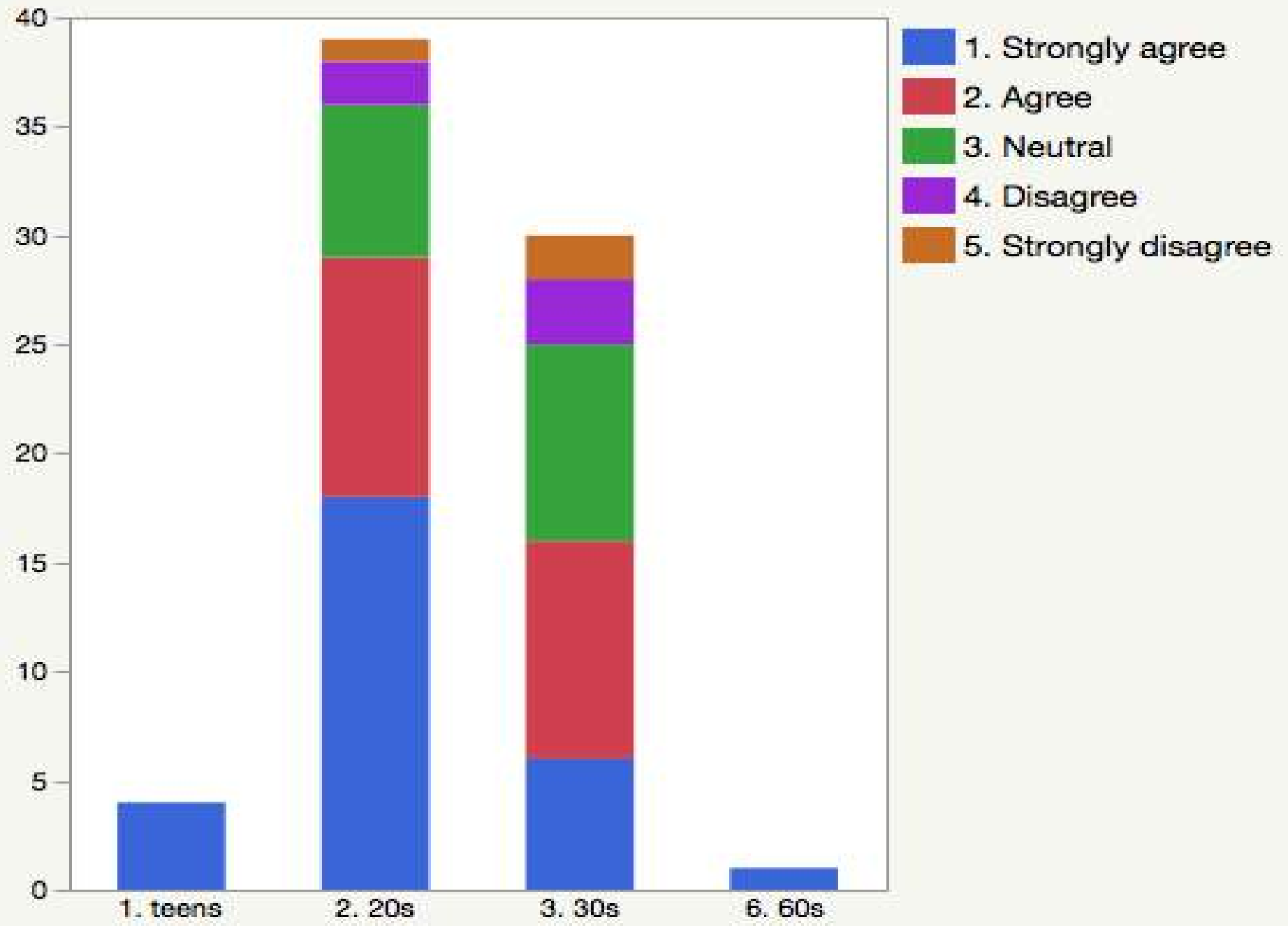
X 軸 : Q12 年代は?
Y 軸 : Q4 . Do you think it is meaningful to study in Kobe, Japan about the ways to solve social issues through ICT?



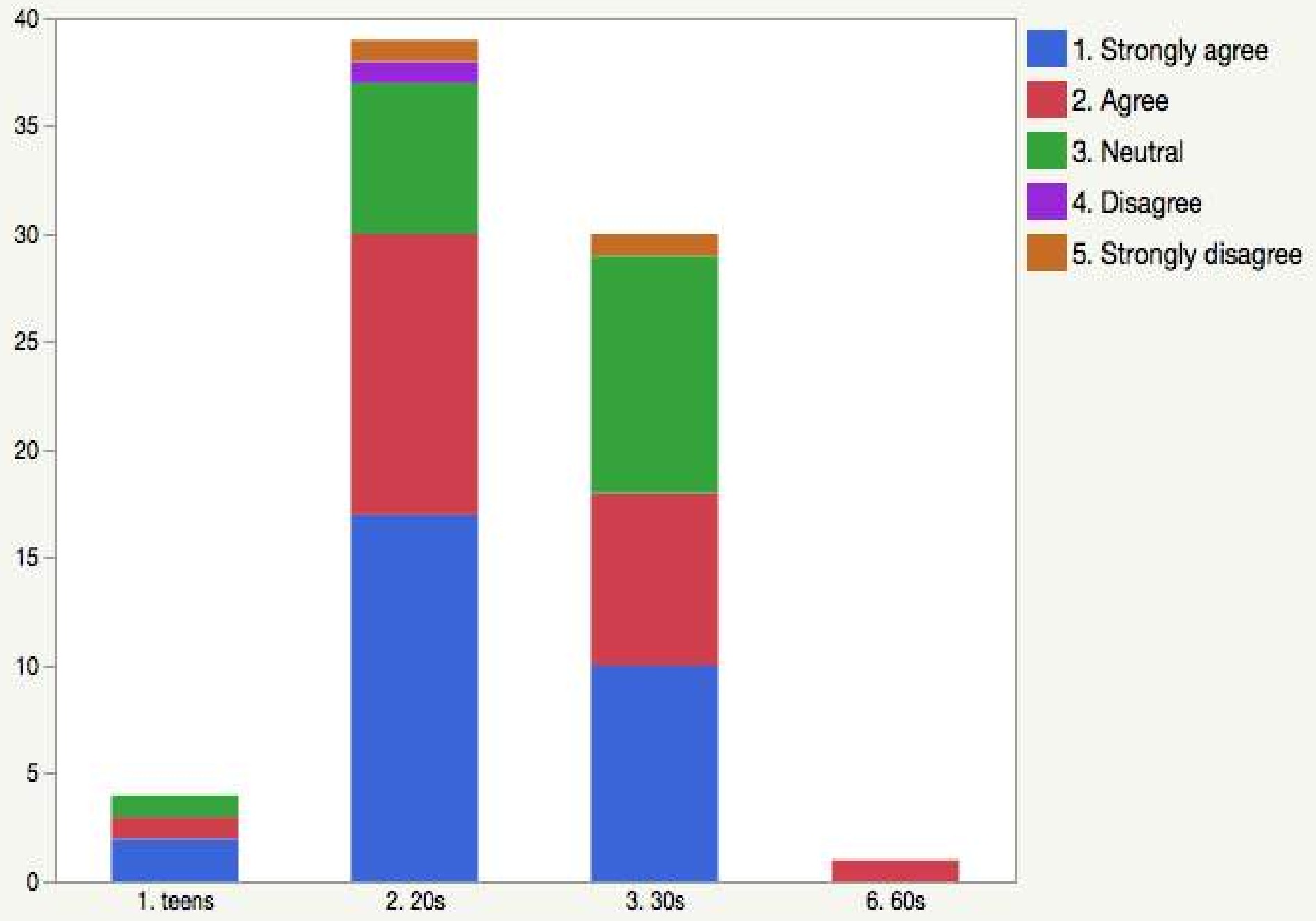
X 軸 : Q12 年代は?
Y 軸 : Q5 . After listening to this program, are you further more interested in Kobe city and Japan?



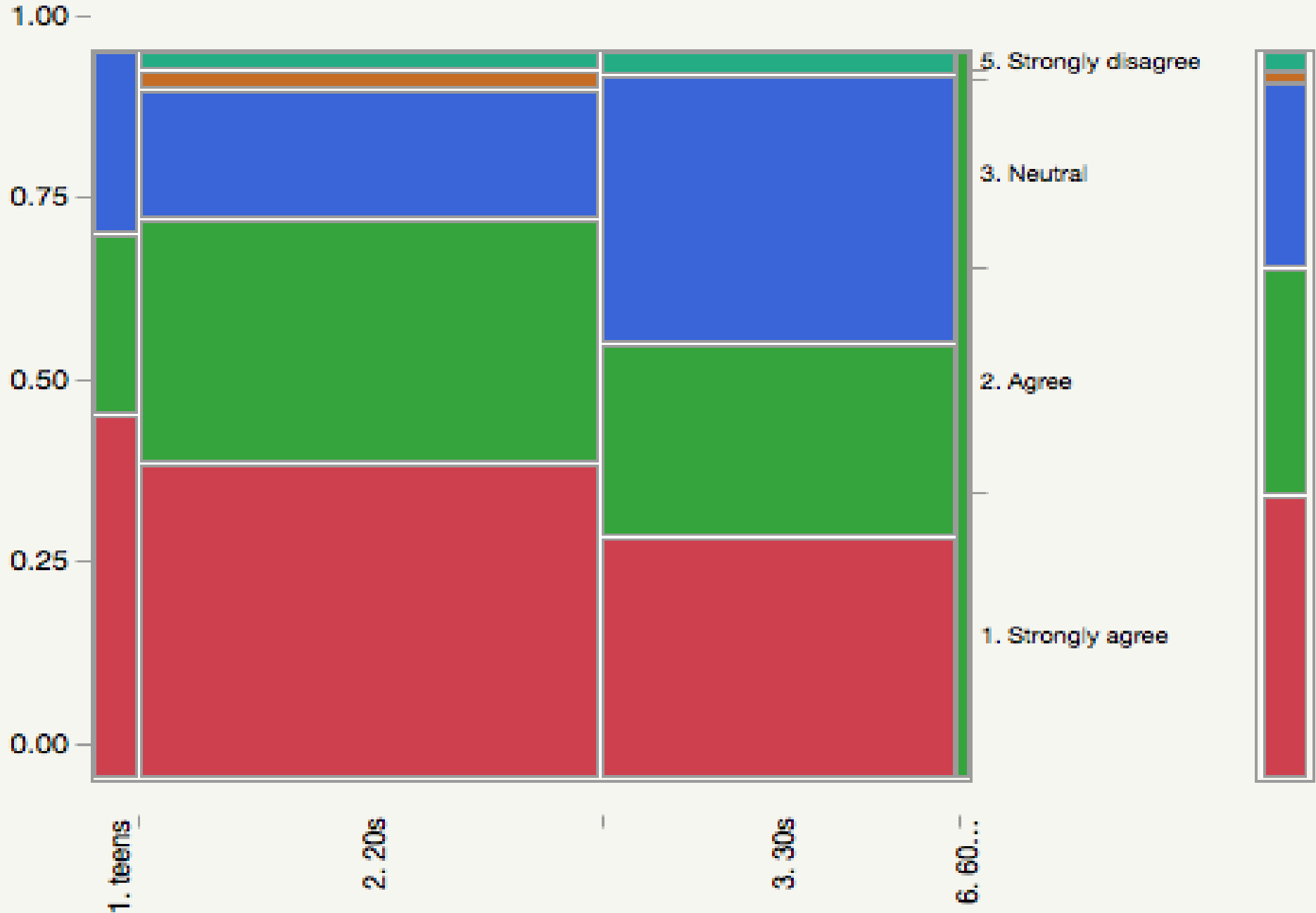
Y軸：Q7. After listening to this program, are you more interested in the human resource development project in Rwanda?
X軸：Q12 年代は？



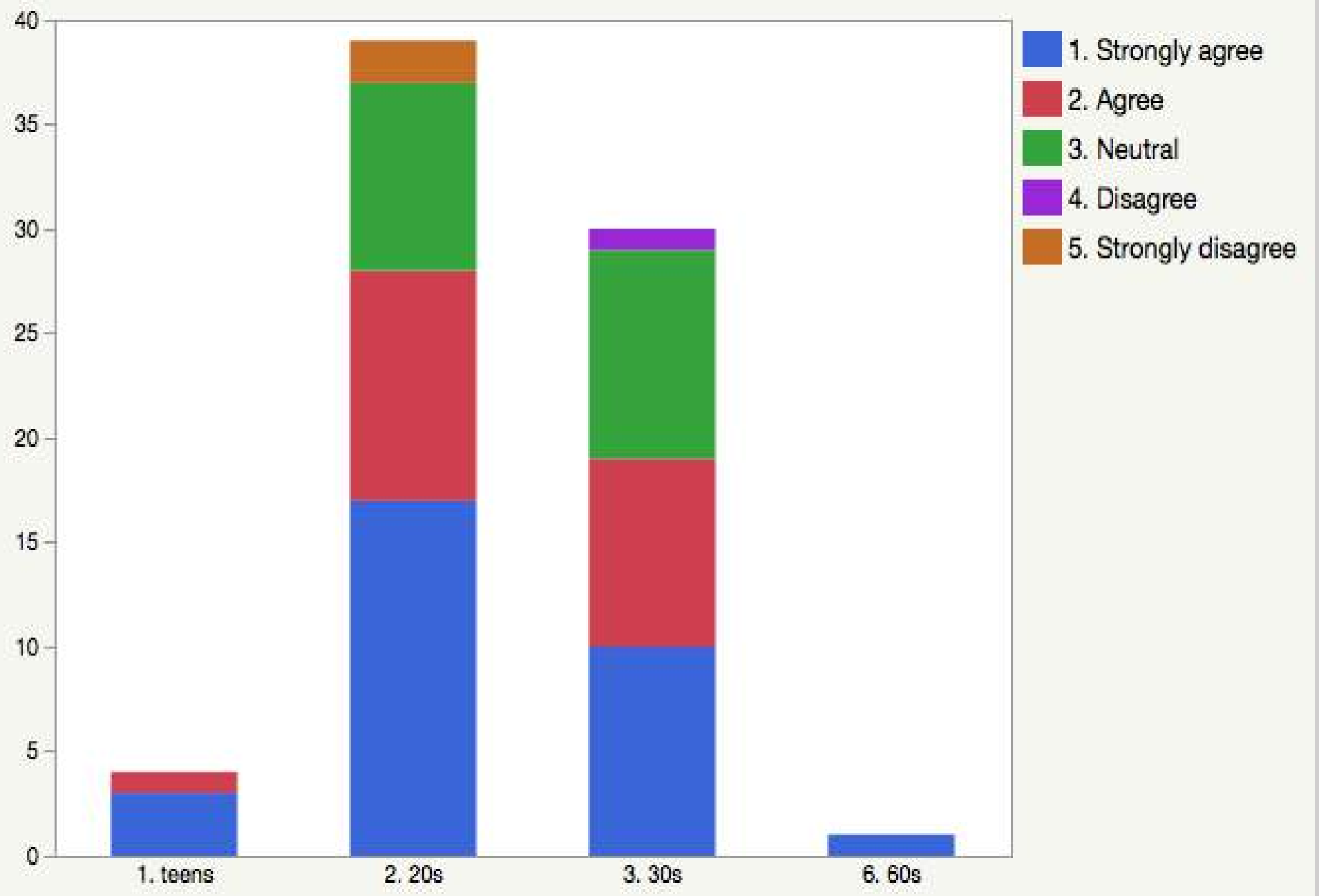
×軸：Q12 年代は？
Y軸：Q9 . Do you think this radio program works as a way to get people interested in Japan or Kobe?



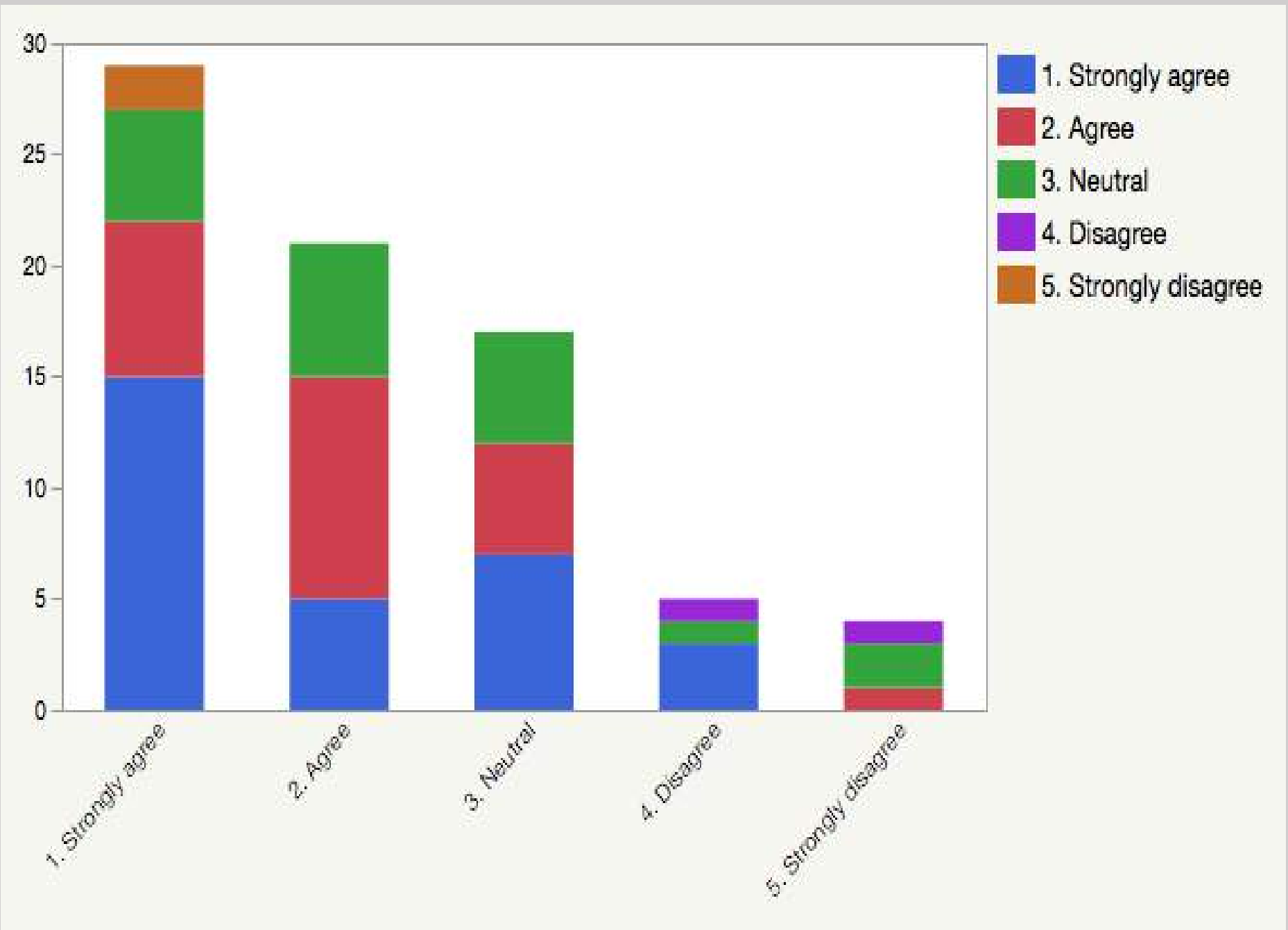
X軸: Q12 年代は...
 Y軸: Q6 . Do you think this radio program works as a way to get people interested in Japan or Kobe?



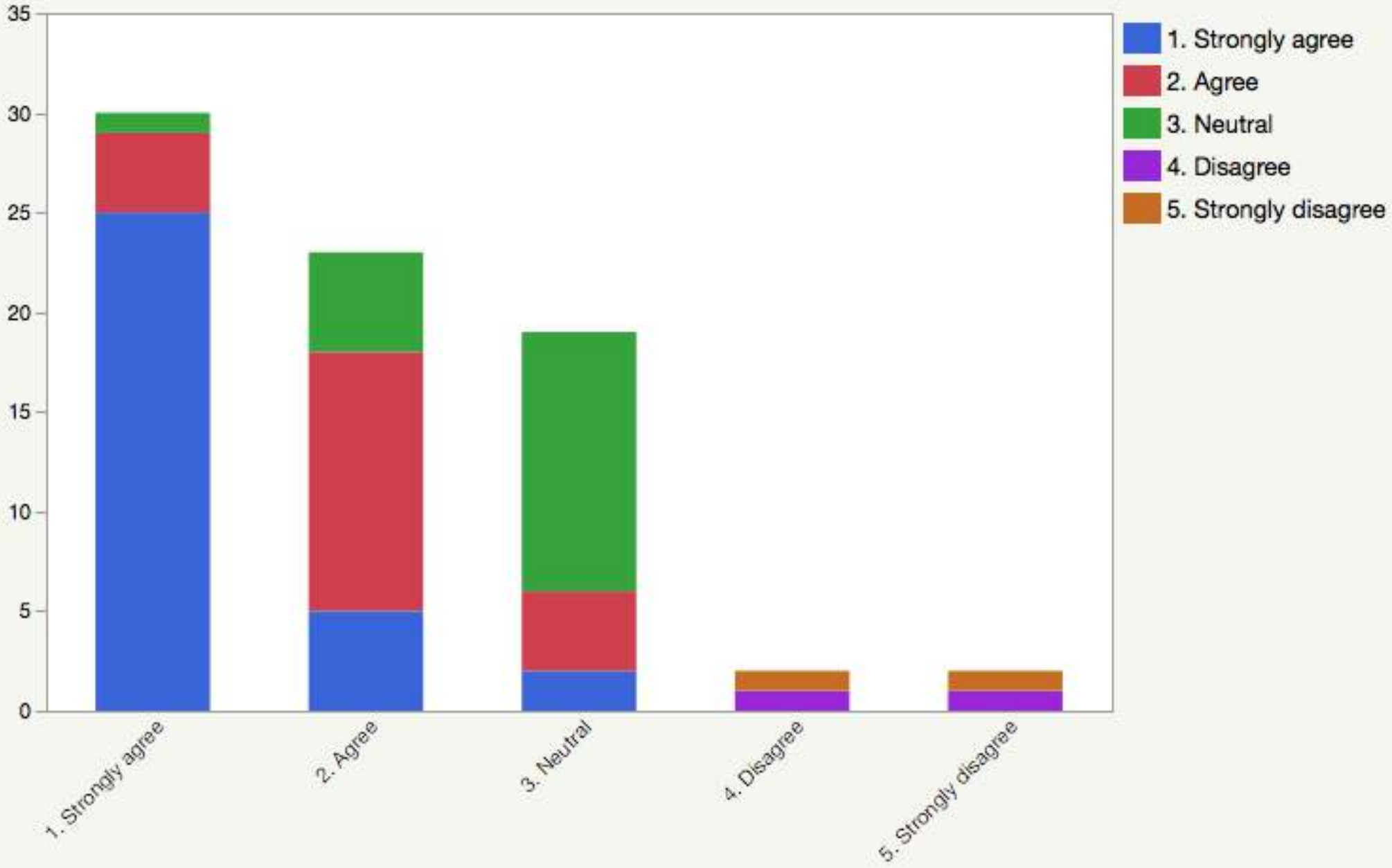
Y 軸 : Q10 . Are you interested in listening to more shows of this program?
X 軸 : Q12 年代は?



X_問 : Q₁ . After listening to this program, are you more interested in the human resource development project in Rwanda?
Y_問 : Q₂ . Do you think this radio program works as a way to get people interested in Japan or Kobe?



X_問 : Q₉ . Do you think this radio program works as a way to get people interested in Japan or Kobe?
Y_問 : Q₉ . Are you interested in listening to more shows of this program?



本視聴調査報告書は、神戸情報大学院大学の委託により、NPO 法人エフエムわいわいが調査作成を行いました。



実施関係者

神戸情報大学院大学 : NSENDA LUKUMWENA、船山静夏、矢野孝一
NPO 法人エフエムわいわい : 金千秋